

○此事乃萬代爾萬代に
 ○其幸乎得事乃繁波其の幸ひを得る
 ○其惠乎受事乃廣波其の惠を受くる
 ○此水乃深惠幸此の水の深き

作例

○不絶不崩續行絶えず崩れず
 ○設多留下樋乃自繁毛設けたる下
 ○行巨留水乃自廣毛行き直る水の廣
 ○彌遠爾潤布可久いやはや遠にう

水分乃事乎守給布神乃御前爾白左久此世爾住人草乃一日毛無氏波
 得有奴者波波氏用留水奈留爾其水乃清止否止爾依氏波惡病爾染美
 殞身布事乃多奈禮波神代乃昔天神乃水取乃術乎授坐氏與里世波皆
 眞清水爾潤布御惠乎受留事奈禮止所止爲波濁差氏甚可厭者毛有事
 奈禮波此度何々乃催乎以氏二里三里乎隔多留山川乃清瀬乎下樋爾
 引來氏此乃何々乃内乃限里悉久每家爾配里無限久分氏不足事無久
 盡事無久普久平介久味水乃眞清水乎與留事止成志賀故爾今日其事

始乃式乎舉止爲氏捧物奠氏奉言祝留狀乎平介久安介久聞食氏自今
 將來此事乃萬代爾不絶不崩續行氏其幸乎得事乃繁波設多留下樋乃
 自繁毛繁久其惠乎受事乃廣波行巨留水乃自廣毛廣久此水乃深惠爾
 彌遠爾潤布可久守惠美幸給止恐美恐美毛白須

造船竣功

此は、世に海運の便を廣め、世を益せむが爲に、其の使用の船舶を造り、此れが
 竣成の式を擧ぐるに當り、其の船體航海の上に總ての災なく、大に利益を得て、
 社會を益せむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○大御代乃榮行隨爾大御代の榮え
 ○海路乃通毛眞盛爾海路の往來も
 ○往反布人毛往き歸り
 ○有里通布人毛有りかよす
 ○世中乃開行爾世の中の開け行
 ○船路盛爾船路さかりに
 ○彌繁久成來留賀來るが故に
 ○日爾異爾日に異なり

- 内國外國乃無別久我が國外つ國の老別なく
- 此國乃物乎積出世此の國の物を積み出せば
- 此爾依氏顯世爾此れに依りて此の世に
- 其利益乎得事多奈禮其の利益を得る事多し禮は
- 志乎興志其業乎擴張志を興し其業を擴張す
- 何々丸止云布日本丸又は東洋丸等なり
- 今日乃生日乃足日爾解上に
- 船下乃式奉仕止為船下しの式を奉仕すると爲て
- 平介久安介久聞食解上にあり
- 港々乃泊毛安良介久港々の泊し安らげく
- 船泊牟處々爾無災久船の泊らん處に災なく
- 更爾毛不言更て言ふ
- 八重鹽路乎隔志外國乎八重の鹽路をへて外國を
- 物積送里積出須業烈久物積を送り積出す業の烈しく
- 彼國乃品乎積送來彼の國の品を積み送り來て
- 幸福乎得事許多奈禮幸福を得る事多し禮は
- 此度何某伊此の度何の某が
- 思乎凝志生業乎營牟思を凝らし生業を營牟す
- 大船乎造出志大船を造り出し
- 船打清米船うち清め
- 奉言祝留狀乎言ほき奉る狀を
- 此船乃通路平爾此の船の通路平らかに
- 此船乃走里甚早久此の船の走り速し早久
- 内國乎彼方此方為波内國を彼方此方爲るは
- 國乃内乎西爾東爾國内を西東に
- 西爾東爾馳通止毛西東に馳せ通ふと
- 外國爾往來爲止毛外國に往來するると
- 乘多留人々爾毛障乗多し留人々爾毛障
- 誤乃火乃災比誤りての火災比
- 此船爾依氏蒙牟幸此の船に依りて蒙る幸は
- 此船爾就氏收牟利益此の船にて收む利益は
- 無絶事久令有給止無絶る事久し令有給止

作例

- 大海原乃浪乎隔志大海の浪を隔てし
- 積入志種々物爾恙積入し種々の物に恙なく
- 暗礁爾觸禮風乃進暗礁に觸れ風に進む
- 進來船乃行合毛不船と船との面合はれず
- 其形乃總乃彌廣爾その形の總のいよいよ廣く
- 其引絙志綱乃彌多その引波したる綱多し
- 船乃御靈止坐須神船の御靈止坐須神
- 盛爾往反布人毛彌盛なり往反布人毛彌
- 出須業乃烈久此爾出須業乃烈久此爾
- 其業乎擴張牟止何其業乎擴張牟止何
- 打清米船下乃式奉打清米船下乃式奉
- 船乃御靈止坐須神船の御靈止坐須神
- 盛爾往反布人毛彌盛なり往反布人毛彌
- 出須業乃烈久此爾出須業乃烈久此爾
- 其業乎擴張牟止何其業乎擴張牟止何
- 打清米船下乃式奉打清米船下乃式奉
- 船乃御靈止坐須神船の御靈止坐須神
- 盛爾往反布人毛彌盛なり往反布人毛彌
- 出須業乃烈久此爾出須業乃烈久此爾
- 其業乎擴張牟止何其業乎擴張牟止何
- 打清米船下乃式奉打清米船下乃式奉

食兵。自今後波。此船乃通路平爾。港々乃泊毛安良介久。内國乎彼方此方。爲波更爾毛不言。八重鹽路乎隔志外國乎。西爾東爾馳通止毛積入志種々物爾恙奈久。乘多留人々爾毛障奈久。暗礁爾觸禮風乃進爾逢比誤乃火乃災比進來船乃行合毛不令有。此船爾依毛蒙牟幸波。其形乃總乃彌廣爾。此船爾就毛收牟利益波。其引繩志綱乃彌多爾。無絕事久令有給止。恐美恐美毛白須。

郵便局開始

此は、郵便局を開設して、其の式を擧ぐるに當り、該地方の便益大きなるを祝ふと共に、將來益々事業の發達隆盛ならむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

- 世爾住人乃幸多留賀中爾毛世間人の幸が多かるが中にも
- 通信書乃通乃通信の往來の輪の往來の
- 五百里千里爾毛五百里にも千里にも
- 直爾通比行直に比行
- 世爾幸毛數有賀中爾世に幸福も數あるが中に
- 人々乃爲須通信乃人々の爲る通信の
- 内國外國乃果爾毛内國又は外國の果にも

- 東間爾至東の間に至りて
- 其事乎辨留許尊波無久その事を辨するほど尊きはなく
- 其波世爾遠近乃別無久その波に遠近の別なく
- 我人止毛遠近乎不言我人も遠近をいはず
- 或波乍居爾志あるは居たりて
- 或波不出家志あるは家を出ずして
- 各自家業乎勤美務各自の家業を勤め美務を
- 有經留事波有るは留事波
- 己毛彼毛不出家志己も彼も家を出ず
- 國中悉至留處爾國中に悉く至る處に
- 其局乎置其の局を置きて
- 事扱世給爾依事奈禮波事を扱はせ給ふに依ることなれば
- 郵便局乎設給郵便局を設け給ひて
- 直爾通比行直に比行
- 其旨乎知須留許嬉波無久その旨を知らねば嬉しむ程なく
- 應問須留書波時乃問爾通應問する書翰は一時の間に
- 聞毛告留毛東間爾爲得聞くも告ぐも東間の爲し得たり
- 隔多留人止言問比隔たりたる人止言問比
- 外國乃者止語外國のもの止語
- 開行久御代爾樂美乍開明の代に樂しみながら
- 專此乃音信須留道開介專此の音信する道のひらけ
- 他處者止乍居爾志他處に在る者と居たりて
- 内外乃國皆處到内外の國みな到る處
- 事行世給惠爾依事奈禮波事を行はせ給ふ惠に依れば
- 此度新爾此處爾毛此の處に新し
- 其事乎令行坐賀故爾其事を行はせ給ふ故に

- 茲爾事始式乎舉止爲氏茲に開始の式を奉行するとして
- 奉言祝留狀乎言ほさるる狀を
- 平介久安介久聞食氏解上にあり
- 日爾異爾扱布通信事波日に取扱ふ通信ことば
- 夜晝止無久行通信事波行ふ通信ことばはよるひると無く
- 馳配留區内乃自廣毛廣配送區内の廣きよりひろく
- 年々爾榮行牟事波年々に榮え行かむことば
- 引延志糸金乃自長毛長引渡したる電線の長きより長
- 彌廣爾彌遠爾立榮可久彌くひろく彌く榮ゆるより

作例

通信乃事乎守給布神乃御前爾白左久世爾住人乃幸多留賀中爾毛通信書通乃五百里千里爾毛束間爾至氏其事乎辨留許尊波無久其波世爾遠近乃無別久應問須留書波時乃間爾通或波乍居爾志氏隔多留人止言問比或波不出家志氏外國乃者止語氏各自家業乎勤美務氏開行久御代爾樂美乍有經留事波專此音信須留道開介國中悉至留處爾其局乎置氏事行世給惠爾依事奈留爾此度新爾此處爾毛郵便局乎設給

氏其事乎令行坐賀故爾茲爾事始式乎舉止爲氏捧物奠氏奉言祝留狀乎平介久安介久聞食氏日爾異爾扱布通信事波馳配留區内乃自廣毛廣久年々爾榮行牟事波引延志糸金乃自長毛長彌廣爾彌遠爾立榮可久守惠美幸給止恐美恐美毛白須

商船會社支店開始

此は、世に廣く内外國の運搬行通を謀り、商船會社にて新に支店を設け、其の開始式を舉るに當り、宇内を益する深大の業なるが故に、毎に航海の船上に災なく、益々隆盛を極めむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述べし。

- 國乎離禮海乎隔志處波國をばなれ海を隔たして處は
- 陸不續海打隔志處波陸地つつかず海路を隔てし處は
- 通路乎開支船乎馳世航路を開き船を馳せ
- 浪路乎覓米船通世海路を覓め船を通せ
- 時日乎定氏爲往來乍定日時刻を定めて往來しついで
- 往來乎爲爾時日乎定往來を爲すに日時を定め
- 茲爾通乎者乎乘世茲に通はるる者に乗せ
- 茲爾趣久人乎乘氏茲に趣むる人に乗せ

○彼方此方乃物積運比の彼なつた此なつた
 ○彼禮此禮乃物乎積出積送物をつみ出し物をつみ送り
 ○到處爾出人志構所到る處に出張員を置き出張所を構へ
 ○商須留者乃便乎謀里商人の便謀る里商人の便
 ○不絶不滞普久廣久絶えず滞らず久く絶えず滞らず久く
 ○大御代乃為人乃為大御代の為め大御代の人乃大御代の人
 ○御代乃為人乃為乎謀里御代の人乃御代の人
 ○此度此乃何々乃港爾此の度此の何々港此の度此の
 ○新爾其所乎構新に其の場所を構へ
 ○專其事乎行賀故爾專其の事を行ふが故に
 ○奉言祝留狀乎解上に
 ○自今後波朝夕爾今より後は朝夕に
 ○乘留客人乃絶留時無久乗る客人の絶ゆる時なく

○内國外國乃無別久内つ國外つ國の差別なく
 ○内國爾毛又外國爾毛内國にも外國にも
 ○船差寄留處々爾出人志船の寄留する處には人を出張させ
 ○每日爾其事乎扱乎以毎日その事を扱ふを以つて
 ○每爾其扱乎令為乎以毎に其の扱を爲すむるを以つて
 ○愈此業乎擴張牟止思比此の業を擴張せんと思ひ
 ○大爾此事乎廣牟止大に此の事を廣めむと
 ○更爾其所乎設さらに其の場所を設けて
 ○事扱賀故爾事を取あつたが故に
 ○茲爾事始式乎舉止為茲に開店式を奉行すると爲して
 ○平介久安介久聞食解上に
 ○出入留船乃違事無久出づると入るとの違ふこと無く
 ○船乃通乃違比無久船の通ひの違ひなく

○客人乃絶留事無志客人の絶ゆることなく
 ○積送留荷乃成山賀如久積送くる荷物の山なすが如く
 ○馳渡海原乃果無賀如久馳せ渡る海原の果なきが如く
 ○遠久久久榮行遠く久しく榮え行きて
 ○奉添留可久添へ奉る可く

○其乃利益乃多奈留事其の利益の多かることは
 ○其營牟業乃榮牟事波其の營業の榮むことは
 ○廣久平爾雨風乃災無久廣く平に雨風災なく
 ○進步御世乃大御光乎進み行く御代の大御光

作例

此社乃業乎守給布神乃御前爾此の社業を守り給ふ神乃御前
 開支船乎馳世時日乎定開支船乎馳世時日乎定
 乃物積運比内國外國乃無別久乃物積運比内國外國乃無別久
 事無久商須留者乃便乎謀里事無久商須留者乃便乎謀里
 爲愈此業乎擴張牟止思比爲愈此業乎擴張牟止思比
 故爾茲爾事始式乎舉止爲故爾茲爾事始式乎舉止爲
 爲愈此業乎擴張牟止思比爲愈此業乎擴張牟止思比
 故爾茲爾事始式乎舉止爲故爾茲爾事始式乎舉止爲
 爲愈此業乎擴張牟止思比爲愈此業乎擴張牟止思比
 故爾茲爾事始式乎舉止爲故爾茲爾事始式乎舉止爲

聞食氏。自今後波朝夕爾。出入留船乃違事無久。乘留客人乃絶留時無久。其利益乃多奈留事波。積送留荷乃成山賀如久。其營牟業乃榮牟事波。馳渡海原乃無果賀如久。廣久平爾雨風乃災無久。遠久悠久榮行氏。進歩御世乃大御光乎奉添留可久。守惠美幸給止。恐美恐美毛白須。

運送會社支店開始

此は、運送會社の業務を擴張して、全國各處に支店を設け、其の開始式を行ふに際し、世の便益の大なるを祝し、併せて該業の隆昌を冀ふ事なり。依りて其の意を述べし。

- 開行久御代乃惠爾波開運の御代
- 我毛人毛遠近乎不言我人も遠近を言はず
- 人與里送越物毛安久來里人より送り物も疾く行
- 人乃送越品毛疾久來里人の送り品もとく來り
- 萬事乃進行久世爾波萬事の進歩する世には
- 人皆乃遠近乎不言人みなの遠近を言はず
- 我與里出物毛疾久行至里我より出物も疾く行
- 我賀出物毛安久行至里我が出す物も安く行き至り

- 又事爾當里時爾逢氏又事に當り時波に逢うては
- 貴品家物乃總乎舉氏貴重品又は家具品の總なあげて
- 此乎他處爾送留耳奈良須此を他處に送るばかりならず
- 商乃事柄爾依氏商法の事柄に依りては
- 此處爾毛彼處爾毛行禮氏此の處にも彼の處にも行はれて
- 其物爾恙奈久最毛早乎冀比物の恙なき上に最も早く
- 其能久行留止否止爾依氏その能く行るに依りては
- 世爾爲障事深介禮世に障を爲すに依りては
- 今波眞曲爾其定毛立今はつぶさに其の定りも立ち
- 甚便里能行禮いと便利よく行れつゝ有るに
- 特爾其處乎構氏特にその處を構へて
- 茲爾事始式乎舉止爲氏茲に開始式を爲し行するとし
- 平介久安介久聞食氏解上にあり
- 又時止事止爾逢氏又時と事と波に逢うては
- 家品貴物乃限乎盡氏家具品并に貴重物の限りをつくして
- 商乎業止爲留家爾波商業する家にては
- 其運送乃事波志毛朝夕爾其の運送事柄は朝夕に
- 甚毛速爾最毛恙支乎冀比甚も速にし又恙なきを冀ひ
- 此乃事乃全止否止爾依氏此の事業の安に依りては
- 世乃障止成事多奈禮世の障りと成る多し禮
- 今波悉久其手立毛定里今は悉く其の手段も定りて
- 甚毛麗久行禮往乎いと麗しく行れゆきて
- 此度更爾斯乃何々町爾毛此の度更に何町にも
- 此乃事乎令扱乎以氏此のことを扱は
- 奉言祝留狀乎言はさ奉る狀を
- 其利益乃繁良牟事波其の利益の繁くあらんことば

○積送留車乃自轍毛繁久積み送り出す車
 ○其幸乃廣良牟事波其の幸の廣か
 ○彌遠爾彌廣爾立榮可久立榮ゆるやう
 ○馳配留區乃自廣毛廣久馳くばる區域の

作例

運送乃事乎守給布神乃御前爾白左久開行久御代乃惠爾波我毛人毛
 遠近乎不言人與里送越物毛安久來里我與里出物毛疾久行至里又事
 爾當里時爾逢岳波貴品家物乃總乎舉氏此乎他處爾送留耳奈良須商
 乎業止爲留家爾波其運送乃事波志毛朝夕爾此處爾毛彼處爾毛行禮
 氏甚毛速爾最毛恙支乎糞比此事乃全止否止爾依岳波世乃障止爲留
 事多奈禮波今波悉久其手立毛定其麗久行禮往乎此處更爾斯乃何々
 乃町爾毛特其處乎構氏此事令扱留乎以氏茲爾舉始式乎舉止爲氏捧
 物奠氏奉言祝留狀乎平介久安介久聞食氏其利益乃繁良牟事波積送
 留車乃自轍毛繁久其幸乃廣良牟事波馳配留區乃自廣毛廣久彌遠爾

彌廣爾立榮可久守惠美幸給止恐美恐美毛白須

公園開始

此は、都市其の他に於て、公園を設け、其の開始式を擧ぐるに當り、誠に千歳の
 美舉なるが上に、其の地の聲望を高むる事なれば、益々公園の隆榮せむ事を冀ふ
 事なり。依りて其の意を述ぶべし。

- 人多爾住都會人の多く住居する都會
- 軒端連留市内爾在氏波軒ばを連ねる市内に在りては
- 朝夕爾通布清支風毛無久朝夕に通ふ清涼なる風
- 其家立乃繁賀隨爾其の家並の繁
- 人身乃動乎試處毛少久人身の運動を試する所もすくなく
- 籠在留人閑居留者爾波戸内に籠りて在る人閑居する者
- 内爾許物志籠耳在者爾波内に許り居る者に
- 家建稠密奈留都内家の稠密なる都會の内
- 人多爾住牟市内爾在氏波人民の多く在りては
- 清支風乃通毛乏久清涼なる風の通
- 立並布家毛繁賀隨立ち並ぶ家も繁
- 其身乃活乎馴處毛無久その身の活動な馴す處もなく
- 身乃爲自然不良乎以氏身の爲自然と不良なるを以つて
- 自然身乃障乎爲乎以氏自然に身の障り爲るを以つて

- 内外乃國共爾到處爾内外の國々到處に
- 山乎築支池乎穿山を築き池を穿ち
- 木立乎作里流乎通志木立を作り流れを通し
- 偉支岩廣良奈留芝生大岩廣良奈留芝生
- 橋有里阿妻屋有里橋あり阿妻屋あり
- 百草乃花句種々乃魚躍百草の花句ひ色魚躍
- 無春無秋皆此爾遊春秋ともに此處に遊び
- 年時乃無別每爾茲遊年何時と云ふ遊び
- 今日園開式乎舉止今日開園の式を舉る
- 平介久安介久聞食解上
- 此園乃荒留事無久此の公園の荒
- 市内乃趣乎高留乎以市内のおもむき
- 繁立百木乃自梢毛繁り立つ百木の梢より
- 噴上水乃自池面毛噴水する池の水面
- 立榮牟公乃園止立ち榮えむ公園と
- 彌遠爾萬代爾萬代に遠
- 公乃園有事爾公園の設け有
- 山打築支池掘添山うち築き池ほり添へ
- 木立繁良世水引廻木立を繁らせ水を引く
- 異支巖麗支芝生奇麗なる巖麗芝生
- 橋架渡志東屋乎設橋架け渡し阿を設け
- 種々乃花咲鳥謠比色々の花咲き鳥謠
- 市内爾一乃眺添留市内に一人眺添留
- 此度斯乃園乎設此の度斯の公園を設け
- 奉言祝留狀乎奉言祝留狀
- 自今後波今後
- 衰留事無久衰ふる事無久
- 愈益々榮行牟事愈々榮行牟事
- 其名乃廣久稱良その名の廣久稱良

作例

公園乃事乎守給布神乃御前爾白左久人多爾住都會軒端連留市内爾
 在波朝夕爾通布清支風毛無久其家立乃繁賀隨爾人身乃動乎試處
 毛少久籠在留人閑居留者爾波身乃為自然不良乎以兵内外乃國共爾
 到處爾公乃園有留事爾兵山乎築支池乎穿知木立乎作里流乎通志偉
 支岩廣良奈留芝生橋有里阿妻屋有里百草乃花句種々乃魚躍無春無
 秋皆此爾遊兵市内爾一乃眺添留者加良此度斯乃園乎設兵今日園開
 式乎舉止為兵捧物奠兵奉言祝留狀乎平介久安介久聞食兵自今後波
 此園乃荒留事無久衰留事無久愈益々榮行牟事波繁立百木乃自梢毛
 繁久其名乃廣久稱良禮牟事波噴上水乃自池面毛廣久彌遠爾萬代爾

立榮車公乃園止守惠美幸給止恐美恐美毛白須

新聞發行

此は、世に新聞の業を起し、其の發行式を擧ぐるに當り。該業は社會の針盤天下の耳目にして、洵に文明の木鐸たるが故に、益々隆盛を極めむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

- 凡新民主須留事乎助介凡人民を新に
- 開行久世乃導乎補比開行久世の人
- 朝爾波外國爾發志事乎告朝には外國
- 夕爾波內國爾有志事乎知世夕には內國
- 務氏事乃進乎誘比務めて事のす
- 或波人草諸乃あるひは人民
- 或波內國舉氏內國かな
- 進行久御世止民止乎進米世と人民と
- 開行久世人乃智乎導支開行久世の人
- 內國乃事乎速爾告速に告げ
- 外國乃事毛忽爾知世外國の事も忽
- 專世乃幸福乎謀里專ら世の幸
- 均久希閉留心乎言比顯志均く希望す
- 深久思布事乎代氏述深く思ふこと

- 或波可來世狀乎云顯志世の狀態を云ひ
- 上波天下乃政乃狀與里上は天下の政
- 顯世乃耳目乎以氏此の社會の耳
- 君爾國爾盡力乃魁波君に國に力を盡
- 此乃新聞紙乃業爾此の新聞紙
- 新聞乃業爾優者無禮波新聞の業に優
- 其志乎興志此社乎構氏其の志を興し此
- 諸乃賓客與里諸の來賓
- 此場爾臨氏此の場に立
- 奉言祝留狀乎解上に
- 自今將來ゆくまき
- 刷出須紙乃自數毛繁久刷り出す紙の
- 年爾月爾廣良年譽波年に月に廣ま
- 或波勢迫氏波自良代氏述あるは勢の迫る
- 下波諸人乃善惡爾毛及保志善惡等に及ぼして
- 世爾立乍此の世の中に
- 爲君爲國力乎盡波君の爲め國の爲
- 越須者無禮波越したる者
- 此度何乃某伊此のたび
- 有志者謀氏其事乎興志有志の者謀りて
- 社長記者事務員爾至麻氏社長記者事務員に至る
- 茲爾事始式乎舉止爲氏茲に開業式を舉
- 平介久安介久聞食氏解上に
- 日爾異爾榮行年事波日に榮え
- 書載留事乃自繁毛繁久記載する事柄の
- 購讀者乃自廣毛廣久購讀者の廣く

○刷出須紙乃自廣毛廣久刷出す紙の廣き ○彌遠爾茂榮爾彌遠にむ
 ○無限久令立榮給止限り無く立ち榮 止え含め玉へと

作 例

此乃新聞乃業乎守給布神乃御前爾白左久凡新民須留事乎助介開行
 久世乃導乎補比朝爾波外國爾發志事乎告夕爾波內國爾有志事乎知
 世務事乃進乎誘比專世乃幸福乎謀里或波人草諸乃均久希閉留心
 乎言比顯志或波內國舉氏深久思布事乎代氏述上波天下乃政乃狀與
 里下波諸人乃善惡爾毛及志氏顯世乃耳目乎以氏世爾立乍君爾國爾
 盡力魁波此新聞紙乃業爾越須者無介禮波此度何乃某伊其志乎興志
 此社乎搆氏諸乃賓客與里社長記者事務員爾至麻氏此場爾臨氏茲爾
 事始式乎舉止爲氏捧物奠氏奉言祝留狀乎平介久安介久聞食氏自今
 將來日爾異爾榮行牟事波制出須紙乃自數毛繁久年爾月爾廣良牟譽

波購讀者乃自廣毛廣久彌遠爾茂榮爾無限久令立榮給止恐美恐美毛
 白須

海外遊學安全

此は、學術研修の爲に、海外に遊學する者有るに際し、神誼に依りて身に災障な
 く、豫期したる學事を修了して、恙なく歸朝せむ事を冀ふ事なり。依りて其の意
 を述べべし。

- 世爾學術波高低多留毛世の中に學術は
- 行遠爾必自近須留賀如久遠處に行くに
- 內國乃學事乎修了氏內國の學事
- 後波外國爾毛至氏學可久後には外國
- 今何某伊現在何の
- 高支限乎卒多禮波高き限りを卒
- 學事爾波其高低乃有定氏學事には其
- 至巔爾必自麓須留賀如久高根に至るに
- 我國乃學事乎明米得氏我が國の學事
- 後波他國爾毛行氏學可久後には他國
- 內國爾設良禮志學科乃內國に設け
- 高支學乃限乎卒氏高き學問の限

- 更爾外國爾渡行更らに外國に渡り行きて
- 其上乎毛究牟止その上の學術を究むと
- 父母爾請氏旅裝乎調閉父母に請ひ旅裝を調へ
- 來牟何日乃何時來む何日の何時
- 橫濱乃港出留船爾乘橫濱港を出帆の船に乘りて
- 米國乃何々爾向米國のワシントン、ニ
- 雄々志久毛旅立賀故爾雄々しくも旅立
- 身乃幸久有經牟事乎身の幸く有
- 平介久安介久聞食解上にあり
- 船乃障浪路乃災無久船の障り浪の災なく
- 速爾彼國爾到着速に彼の國に到着きて
- 病志支事無久煩志支事無久病しきことなく煩しきことなく
- 思起志其志固良加爾思ひ起し其の精
- 尙其上乎毛學究牟止志興志尙その上の學術を究むと志興志
- 外國爾渡牟敏心乎起志外國に渡らむ敏心乎起志
- 兩親毛許志旅裝毛成兩親も許し旅裝も成りて
- 武庫乃港與里船出志神戶港より出帆して
- 西洋乃何々乃國乎差西洋の英佛
- 勇久毛出立乎以勇しくも出立
- 今日此處爾詣今日此の處に詣て
- 奉乞祈留狀乎解上にあり
- 乘船乃無障久安穩爾乘る船の障りなく安くおたひに
- 彼國爾到着彼の國に到着きて
- 定多留何年乃間波定たる二年式は五年などなり
- 惡病爾不犯異道爾不迷惡病に犯されず異道に迷はず
- 惡事異道爾不迷惡しきこと與し惡しき道に迷はず

- 立初志志乎彌固久持立ち初し志を彌固く持ちなが
- 其譽乃著加良牟事波其の譽の著るからんことば
- 其聞延乃高加良牟事波其のきこえの高くあらんことば
- 學上爾無例支名乎耀志學の上に例なき名をかや
- 本津御國爾恙奈久幸本國へ恙なく幸く無事に
- 受學布道乃蘊奧乎毛究受學布道の蘊奧を毛究
- 戴久帽乃徽乃自光灼戴く帽の徽草の光より灼く
- 吹進布船笛乃自響高吹流船の笛の響より高
- 親族家族乃待詫兩親始め侍人の
- 令歸來給止歸り來しめ

作例

何々神社乃御前爾白左久世爾學術波高低多留毛行遠爾必自近須留
 賀如久内國乃學事乎修了後波外國爾毛至學可久今何某伊内國
 爾設良禮志學科乃高限乎卒多禮波更爾外國爾渡行尙其上乎毛究
 牟止志興志父母爾請氏旅裝乎調來牟何日乃何時武庫乃港與里船出
 志氏西洋乃何々乃國乎差氏勇久毛出立乎以今日此處爾詣氏禮代
 乃物奠氏身乃幸久有經牟事乎奉乞祈留狀乎平介久安介久聞食氏乘

船乃無障久安穩爾彼國爾到里着氏定多留何年乃間波病志支事無久
 煩志支事無久思起志其志固良加爾惡事異道爾迷事無久受學布道乃
 蘊奧乎毛究氏其譽乃著加良牟事波戴久帽乃微乃自光灼久其聞延乃
 高加良牟事波吹進布船笛乃自響高久學上爾無例支名乎躍志乍親族
 家族乃待託留本津御國爾恙奈久幸久令歸來給止恐美恐美毛白須。

祈著述成功

此は、書を著して其の抱負を述べ、此れを後世に遺さむ事を欲するも、其の業の
 至大なれば、神護に依りて其の完了を見む事を祈願する事なり。依りて其の意を
 述ぶべし。

- 遠久言繼志古事毛遺古事
- 記氏遺左禮波不傳記して遺さざれば傳はらず
- 每日爾成出留世乃事毛毎日に成り出る世の事なり
- 語繼支言繼志古事毛語りつぎ言ひ繼ぎし古事なり
- 記者無禮波不傳記者なれば傳はらず
- 人毛告自毛聞久今事毛人し告げ自し聞く今のことなり

- 筆志氏不述波知禮須筆して述ざれば知れず
- 是以氏内國外國乃無別是を以つて内國外國の差別なく
- 記傳志依書氏昔乎明米記し傳へし昔を明め依りて昔を明め
- 書多留物乎見氏不知乎知里書きたる物を見たり知ざらんを知らざらん
- 遠久天地乃開關志事與里遠く天地の開關の事なり
- 近波有世限乃事乎知波近き世に有る限りのことを知る
- 專筆志氏書支著世留專ら筆して著し世に留る
- 其書止其人乃賜奈禮波其の書と其の人と賜ふものなれば
- 功志支事乃多奈留賀中爾毛功志の事なり多奈留賀中爾毛
- 世爾重支波此業奈留乎以氏世に重なる此の業に留る乎以て
- 此度何乃某伊此の度何の某と云ふ者
- 敏心乎振起志敏心を振起し
- 其由乎奉乞祈留狀乎其の由を乞ふ祈奉る狀なり
- 書留留人無禮波遺良須書きたる人無禮波遺れば遺らざる人無
- 此故爾世波古今乃無別此の故に世は古今の差別なく
- 記多留書筆多留物爾依氏記したる書きたる物に依りて
- 遠波彼乃天地初發與里遠く彼の天地の初發の地なり
- 廣波世事乃有乃限廣き世の事なり有る限り
- 明爾知留々者波明らかに知らるる波
- 全久筆執氏記禮志全く筆執りて記されし志
- 其人止記禮志書乃賜奈禮波其の人と記されし書と賜ふものなれば
- 可仰事乃多奈留賀中爾毛仰ぐべき事なり多奈留賀中爾毛
- 世爾尊波此業奈留乎以氏世に尊ぶ此の業に留る乎以て
- 何々止云布書乎著牟止何々と云ふ書きたる著し止む
- 今日此處爾詣氏今日此の處に詣りて
- 平介久安介久聞食氏平介久安介久聞食氏

○朝夕爾千萬乃書乎集米朝夕に千萬の書籍を集め
 ○此乃書彼乃卷止搜索此の書又は彼の卷ともめ
 ○普久校合世深久考證志氏普く校合へし深く考へ
 ○悉曲爾述正久綴留勞乎悉曲に述へ正しく綴る勞を
 ○速爾令底遂給氏速に成し遂げしめ給ひて
 ○綴上牟卷數乃彌高爾綴上む卷數の如くいや高に
 ○連留詞乃長久與明亮爾連るる詞の長く真さやかに
 ○持悅比持樂氏持ち悦び持ち樂みて

作 例

何々神社乃御前爾白左久遠久言繼志古事毛記氏遺左禮波不傳每日爾成出留世乃事毛筆志述左禮波不知是以氏内國外國乃無別久記傳志依書氏昔乎明米書多留物乎見氏不知乎知里遠波彼乃天地乃初發

○此處爾搜里彼處爾索米此所に搜り彼處に索め
 ○校合世考證志氏校合せ考へあかして
 ○眞曲爾述行久勞乎眞つぶさに述べ行く勞きを
 ○嘉志止看行志補給乍嘉しと御覽になり助け給ひながら
 ○其書乃世爾尊禮牟事波其の書の世に尊れむことば
 ○遠久廣久持離禮牟事波遠く廣く持離れむことば
 ○購奴者無久讀左留人無久購はざる人なく
 ○書著世留功乃萬代爾可耀著述せる功の萬代に耀く

與里廣波世事乃有限明爾知留々者波專筆志氏書著世留其書止其人乃賜奈禮波功志支事乃多奈留賀中爾毛世爾重支波此業奈留乎以氏此度何乃某伊何々止云布書乎著牟止敏心乎振起志今日此處爾詣氏禮代乃物奠氏其由乎奉乞祈留狀乎平介久安介久聞食氏朝夕爾千萬乃書乎集米此處爾搜里彼處爾索米校合世考證志氏眞曲爾述行久勞乎嘉止看行志補給乍速爾令成遂給氏其書乃世爾尊禮牟事波綴上牟卷數乃彌高爾遠久廣久持離禮牟事波連留詞乃長久眞明亮爾購奴者無久讀左留人無久持悅比持樂氏書著世留功乃萬代爾可耀久守惠美幸給止恐美恐美毛白須

醫 師 開 業

此は、醫術の開業式を擧ぐるに當り、斯の業は、實に太古神聖の開きて遺し給ひし仁術にて、世に欠く可らざる業なれば、毎に生民の其の恵に浴し、益々業務の

隆昌ならむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

- 顯身爾在留人乃現し身に
- 世乃理乃示賀如久世の理の示
- 不思病爾思はざる病に罹あは氏し苦く波は苦しむに
- 痛麻敷事乃痛麻敷き事なり限かぎ奈な禮れ波は痛ましきこと
- 天坐神乃御惠乎以天に坐す神の氏し御惠を以つて
- 此禮爾手當志此禮爾藥志此れに手當
- 療治留事止其藥止乎示療治の事と氏し其の藥とを
- 大己貴少彦名乃二神大己と少彦
- 次々爾廣之米遺之次々に之れを廣氏しめ之れを遺して
- 今波其業乎學究事毛今は其の業を學氏しび究むることし
- 世爾至里盡留乎世に至りつ
- 此度何乃某伊解上に
- 生氏世爾有經留者乃生て世の中に有あ
- 時止處止乎不言時と處と
- 人皆乃病乎得人みな病を氏し煩波
- 忌々敷事乃極奈禮波忌々敷きこと氏し極みなれば
- 皇產靈神乃神量以皇産靈の神の神氏しはかりを以つて
- 救助留道乎始給與里救助ひ助くる道氏し始め給ひしより
- 助留道乎始給志與里助くる道を始氏しめ給ひしより
- 外國々乃此乃道爾外國々の妙た留ま人ひと此の道に妙
- 各自此乎承各自此れを承氏し得たる人
- 今波其技乎研事毛今は其の技を氏し研ぐことし
- 世爾能久備世に能く備り氏し有るを
- 其乎悉久學卒志乎其を悉く學び卒以て氏しりしを以つて
- 茲爾官乃許乎得茲に官の氏し許を得て
- 其業乎開行止其の業を開き爲て氏し行ふと爲して
- 平介久安介久聞食平介久安介久氏し解上に
- 病止病美惱止病とやみ惱氏し病となやみ
- 重支輕支病乃限重き輕き病波は重き輕き病
- 忽爾癒志速爾直忽にいやし氏し速に直して
- 生人乎危爾助生民をあやう氏しきに助けて
- 爲乃限乎盡行爲の限りを氏し盡し行て
- 天下廣久其名乎聞天下廣く其の氏し名を聞きて

- 其乎無限久學明志乎其を盡く學以て氏しび明めしを
- 今日乃生日乃足日今日乃生日爾に解き上に
- 奉言祝留狀乎解上に
- 自今將來人草諸乃今より將來人氏し民もろくの
- 煩比惱卒病乎見煩ひ惱む病氏し波
- 速爾直志悉久活志速に直し悉氏し速に直し悉
- 蒼生乎憂瀨爾救蒼生を憂へ比ひ氏し人長をうき
- 基開志天神乃御心基開きし天神の爾に代か氏し御心に代り
- 千萬乃者乃其仁乎千萬の者の其稱へ氏しの仁意を稱へ
- 彌高爾彌遠爾可立榮立ち榮ゆるよう
- 天下廣久其名乎聞天下廣く其の氏し名を聞きて

作 例

醫師乃道乎守給布神乃御前爾白左久顯身爾在留人乃世乃理乃示賀

如久。不思病爾。罹氏苦波。痛麻敷事乃。限奈禮波。天坐神乃。御惠乎。以氏。此禮爾手當志。此禮爾藥志。救助留道乎。始給與里。大己貴少彦名乃。二神外々國々乃。此道爾妙奈留人。次々爾廣之米遺之氏。今波其業乎。學究留事毛。世爾至里。盡留乎。此度何乃。某伊其乎。悉久學卒志乎。以氏茲爾官乃。許得氏。今日乃生日乃。足日爾其業乎。開行止爲氏。捧物奠氏。奉言祝留狀乎。平介久安介久聞食氏。自今將來人草諸乃。病止病美惱止。惱車重支輕支病乃。限波速爾直志。悉久活氏。蒼生乎。憂瀨爾救比。生人乎。危爾助氏。基開志。天神乃。御心爾代爲乃。限乎。盡行氏。千萬乃者乃。其仁乎。稱閉天下。廣久其名乎。聞氏。彌高爾。彌遠爾。可立榮守。惠美幸給止。恐美恐美。毛白須。

商家開店

此は、商業を開始、又は變更、或は擴張して、其の開店式を擧ぐるに當り、社會に至大の便益を興ふる事なるを以つて、將來益々繁榮せむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述べし。

- 此度何乃某伊解上
- 其手振乎更爾擴張其の手振りを更に擴張し
- 家乃表乎店處爾改米家の表を店處と改め
- 魂合留同輩胥謀同志の同輩を謀りて
- 此乃商業乎營牟止此の商法を營むと
- 開店乃式乎舉止爲氏△開店式を擧行するを爲て
- 平介久安介久聞食氏解上
- 家業乃榮止人乃爲乎思比家業の榮えを人の爲に思ひ
- 價乎低志品物乎撰比價格を低くし品物を選び
- 遠支近乎不別とほきと近きを別たす
- 不誣不僞おし取り偽り
- 直久正久誠乎盡氏直く正しく誠を盡して
- 先祖與里營美來志先祖より營業し來りし
- 今新爾思比起志今新規に思ひおこし
- 魂合留同志協議同志の協同して
- 此乃商乃館乎建此の商館を建築し
- 今日乃生日乃足日爾解上
- 奉言祝留狀乎解上
- 世人乃爲生業乃爲止世人の爲め又は生業の爲めと
- 良品乎撰比價乎低志良品を撰び價格を低くし
- 町内村里乃隔無久町内と村里との隔なく
- 來氏求留華客乃限來り購ひ求むる者の限り
- 不侮不欺客人を侮らず欺かず
- 明白爾確實爾誠乎以氏明白に確實に誠を以つて

○實直爾商布狀乎實直に商
 ○夜晝止不言來購人波夜晝と言はず米たり購ふ人は
 ○日爾異爾榮行牟事波日に異る榮行は
 ○經時積年隨爾時をへ年を積むに從つて
 ○其店乃繁昌毛例無久其の店の繁昌も例なく

○嘉美悅比坐氏悦比坐して
 ○置列多留品乃自數毛多爾置列多留品乃自數毛多爾
 ○軒爾揭志自廣告毛高久軒に揭げし廣告より高久
 ○其聞延毛遠久廣久其の聞延毛遠久廣久
 ○彌榮爾榮行可久彌榮爾榮行可久

作例

商法乃事爾幸給布神乃御前爾白左久此度何乃某伊先祖與里營美來
 志其乃手振乎更爾擴張魂合留同志協議氏此乃商乃館乎建今日乃生
 日乃足日爾開店乃式乎舉止爲氏種々乃物奠氏奉言祝留狀乎平介久
 安介久聞食氏世人乃爲生業乃爲止良品乎撰比價乎低志町内村里乃
 隔無久來求留華客乃限不侮不欺直久正久誠乎盡氏實直爾商布狀乎
 嘉美悅比坐氏夜晝止不言來購人波置列多留品乃自數毛多爾日爾異

爾榮行牟事波軒爾揭志自廣告毛高久經時積年隨爾其聞延毛遠久廣
 久其店乃繁昌毛例無久彌榮爾榮行可久守惠美幸給止恐美恐美毛白
 須。

實業開始

此は、世に實業を起す者有り、其の開始式を擧ぐるに際し、洵に國力を富し國
 民を利する、有益の計畫なるを以つて、益々該業の隆榮を極めん事を冀ふ事なり。
 依りて其の意を述べし。

○大爾利益有留事乎起志大に利益ある
 ○許多乃資本乎投氏許多の資本を投じて
 ○成得留極美勤乍成うる限り勤めながら
 ○力乃限乎盡波力量の限り盡すは
 ○徒爾身乃譽乎求米徒らに身の譽を求め

○世爾幸比廣支事乎起志世に幸福ひろ
 ○巨額奈留資本乎施巨大なる資金を施し
 ○思乃限乎凝志思慮のかき凝し
 ○力乃極乎盡波力量の極を盡すは
 ○獨里身乃榮乎希比自身ばかりの榮えを希ひ

- 己賀榮乎希布耳爾非己が榮えを希ふ
- 朝夕爾愛使布人々乎朝夕に愛使する人々を惠恵む人々人々惡悪み
- 無夜晝久出入者乎夜晝久出入する者潤潤す志志出入出入者者ななくうる
- 其乃成出須處乃物波其の成出する處の物はす處す處の物の物は
- 内國爾外國爾普久用良禮内外の國に普く用ひる良禮氏氏に普に普く用く用ひひらられれて
- 利己志足人志己を利し人志己己を利を利益益し
- 末遂爾波富國須爲基末はつひに國を富す基となりて基基氏氏末末はつはつひひにに國國をを富富すす
- 御代乃光乎毛添留事奈禮御代の光を添ふる事波波御御代代のの光光をを添添ふふるる事事をを奈奈禮禮ととななれれば
- 其名乎何々社止命名其名を何々社と名づけて氏氏社社とと名名づづけけて
- 茲爾事始式乎舉止爲茲に開業式を舉行する爲爲氏氏△△舉舉行行すするるととし
- 平介久安介久聞食解上氏氏解解上上に
- 雇使布男女爾至麻總て使役する男女の者に至まで氏氏總總てて使使役役すするる男男女女のの者者にに至至ままで
- 此家君乎慕親此會社の主人を慕ひ親みながら作作親親みみななががら
- 我賀譽乎求留耳爾非我が譽を求むる非非ははががららにに非非ず
- 每爾惠使布人々乎毎に惠使する人々を潤潤す志志人々人々をを潤潤し
- 朝夕爾出入者乎朝夕に出入する者惠恵む美美朝朝夕夕にに入入りり出出るる者者をを惠惠むむ
- 其物乎製出志其の物を製出する志上上波波其其のの物物をを製製出出すするる志志をを上上げげて
- 國乃内外乃無別久用良禮内外の國に別なく用ひる良禮氏氏國國のの内内外外のの良良禮禮をを別別なくなく用用ひひらられれて
- 己乎毛人乎毛利志己を利し人志足足志志己己をを利をしし足足ははし
- 自然富國助止成自然と富國の助となりて氏氏自自然然とと富富國國のの助助ととななりりて
- 大御代乃光止毛成事奈禮大御代の光を成る事波波大大御御代代のの光光をを成成るる事事をを奈奈禮禮ととななれれば
- 今日此處爾諸打集今日此處に諸氏氏今今日日此此處處にに諸諸をを打打集集むむ
- 奉言祝留狀乎解上氏氏奉奉言言祝祝留留狀狀をを解解上上に
- 其長立者與里始其の頭立もの氏氏其其のの頭頭立立のの者者ととななりりて
- 此家君乎愛慕此會社の主人を愛慕して氏氏此此會會社社のの主主人人をを愛愛慕慕しして
- 每爾受持留事毎に我が受持持留留事事にに我我がが受受持持すす

- 背事無久違事無久背き違ふ
- 忠實務結忠實に務め氏氏忠忠實實にに務務めめ
- 此業乃彌遠爾彌廣此業のいよく廣く廣廣爾爾此此業業ののいいよよくく廣廣くく

作 例

此業乎守給布神乃御前爾此業を守給ふ神乃御前白左久大爾白左久大爾利益有留事乎起志利益有留事乎起志許多乃資本乎投許多乃資本乎投成得留極美勤成得留極美勤力乃限乎盡波力乃限乎盡波徒爾身乃譽乎求米徒爾身乃譽乎求米己賀榮乎希布耳爾己賀榮乎希布耳爾非朝夕爾愛使布人々乎非朝夕爾愛使布人々乎惠無夜晝久出入者乎惠無夜晝久出入者乎潤志其成出須處乃物波潤志其成出須處乃物波内國爾外國爾普久用良禮内國爾外國爾普久用良禮氏利己志足人志氏利己志足人志末遂爾波富國須爲基末遂爾波富國須爲基氏御代乃光乎毛添留事氏御代乃光乎毛添留事奈禮其名乎何々社止命名奈禮其名乎何々社止命名氏諸打集比此爾事始式乎舉止爲爾事始式乎舉止爲氏捧物奠氏捧物奠奉言祝留狀乎奉言祝留狀乎平介久安介久聞食平介久安介久聞食氏其長立者與里始其長立者與里始氏雇使布男女爾氏雇使布男女爾至麻此家君乎愛慕至麻此家君乎愛慕氏每爾受持留事氏每爾受持留事

爾忠實久勤美務氏背事無久違事無久心穩爾令有給氏此業乃彌遠爾
彌廣爾無限久榮行可久守惠美幸給止恐美恐美毛白須

新地開墾

此は、世に開墾を計畫し、其の國利民福を廣から合むる業なるが故に、神護に依りて此れが成功を全うし、以つて開墾の好果と、其の土地の繁榮とを致さむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

- 去項與里何乃某伊從來より何の業より
- 其爲行牟手立乎謀里其の爲し行ん手段を謀り
- 取施牟順序乎定米取施さん順序を定め
- 大御代乃爲國乃爲大み代の爲め國の爲め
- 葦繁立都浦曲乎墾支葦の繁り立つ浦曲を墾支
- 依高氏波陸田爾造里依高氏波陸田に造り
- 親友等談合氏親友の者と協談して
- 雄心乎振起氏雄心をふり起して
- 五百人千人乎催立氏五百人千人の人夫を催し立て
- 此人不住奴荒野乎開支此の人の住ぬ荒野をひらき
- 浪防乃堤乎築支浪防の堤を築支
- 就低氏波水田止成志就低氏波水田に成志

- 幾萬代乃田畑乎拓幾萬代乃田畑を拓
- 千代八千代乃田乎拓支千代八千代乃田を拓支
- 無極支世乃利益乎興無極支世乃利益を興
- 五百津鋸乃幸鋸乎以五百津鋸乃幸鋸を以
- 國作良志志神業乃後國作良志志神業乃後
- 今乃現爾受行布狀乎今乃現爾受行布狀乎
- 嘉止所看志輔給氏嘉止所看志輔給氏
- 厚支深支恩賴乎幸坐厚支深支恩賴乎幸坐
- 奉乞祈留狀乎奉乞祈留狀乎
- 此新墾乃處波志毛此の新墾の處波志毛
- 家居爲留人夕爾增志家居爲留人夕爾增志
- 日爾異爾富行牟賑波日爾異爾富行牟賑波
- 永久久久立榮牟幸波永久久久立榮牟幸波
- 溝掘里遺水引通志溝掘里遺水引通志
- 無限支國乃利益乎興無限支國乃利益を興
- 狹國乎志氏彌令廣留狹國乎志氏彌令廣留
- 古乃國作乃業乎古乃國作乃業乎
- 今乃現爾勤牟事乎今乃現爾勤牟事乎
- 皇神乃御心爾皇神乃御心爾
- 甚愛久所知食氏甚愛久所知食氏
- 高支廣支御惠乎幸給止高支廣支御惠乎幸給止
- 平介久安介久聞食氏平介久安介久聞食氏
- 移住牟者朝爾加里移住牟者朝爾加里
- 字乎設介村乎成牟字乎設介村乎成牟
- 區劃世志水田乃自畔毛區劃世志水田乃自畔毛
- 作立志陸田乃自畝毛長作立志陸田乃自畝毛長

○彌廣爾彌遠爾立榮牟彌々廣く遠く

○新墾地止新開墾の地と

作例

新墾乃事業乎守給布神乃御前爾白左久去頃與里何乃某伊親友等談
合氏其爲行牟手立乎謀里五百人千人乎催立氏大御代乃爲國乃爲爾
此人不住奴荒野乎開支依高氏波陸田爾造里就低氏波水田止成志幾
萬代乃田畑乎拓兵無限支國乃利益乎興志狹國乎志氏彌令廣留古乃
國作乃業乎今現爾勤牟事乎皇神乃御心爾嘉止所看志輔給氏厚支深
支恩賴乎幸坐止種々乃物乎奠氏奉乞祈留狀乎平介久安介久聞食氏
此新墾乃處波志毛移住牟者朝爾加里家居爲留人夕爾增志字乎設介
村乎成牟日爾異爾富行牟賑波區劃世志水田乃自畔毛繁久永久久
立榮牟幸波作立志陸田乃自畝毛長彌廣爾彌遠爾立榮牟新墾地止守
惠美幸給止恐美恐美毛白須。

博覽會開始

此は、世に博覽會を催し、其の開始式を行ふに當り、其の所の神社に此れを報告
するに際し、該會は實に國家の進運を促し、社會の開明に資する事の大なるを以
つて、其の隆盛ならむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述べし。

- 其事柄乎百度聞與里毛其の事な百度聞むより
- 一度見此乃優爾波及須止一度此れを見及ぶに及ぶ
- 唐國人毛言傳志如久唐土の者も言傳へし如く
- 世爾有留物乃限乎此の世に有る物のかきり
- 普久知得牟波難能事奈禮波普く知らんこと難し能く事なれ
- 一處爾集氏令知乎善止志一處に集めて知しむるを善し
- 他處乃物見他處の物を見
- 外國乃物乎知外國の物を知
- 尋氏微細久知牟從毛たづねて委し
- 親久此乎見爾波不及止親しく此れを見及ぶに及ぶ
- 世爾無限有留物事乎世に限り無く有る物事な
- 悉聞氏知得牟波難業奈禮波悉く聞きて難し業なれ
- 集氏此乎令知乎善止志集めて此れを知しむるを善し
- 諸共爾境乎不越志諸共に境を越すして
- 每人爾海乎不渡志每人に海外に渡らずして
- 他處爾出物毛他處に出る物も

- 不到志 氏共爾見 其の處に到らずし 相共に見られ
- 乍居爾志 氏普久知里 居ながらにし 普く知り
- 世乃進歩乎 導國光乎 世の進歩を導き 益國の光をまし
- 其物乎製出牟人爾在 氏波 出品を製造 せむ人にあ ありて
- 相共爾競比勵 氏 相共にきて 勵み
- 共爾其技乃優牟事乎 思 共に其の技の優 思ふことと思ひ
- 專世乃進牟導奈留乎 以 氏 専ら世の進 導きなる 以て
- 外國々毛務 氏此乎行 比 外々の國も務め 此れを行ひ
- 廣久世乃爲爾盡賀 故爾 廣く世の爲に 盡すがゆゑに
- 今年第何回乃何々會 乎 本年第何回の聯 合協進會又は大 博覽會をいふ
- 此市内爾開支 此の市内 開設し
- 其由乎令奏給事乎 其の由を申し上げ 給ふことな
- 自今始 氏 いまより 始りて

- 外國乃物毛 外國の物 毛
- 人乃誘智比國乃開留乎 助 人の智識を誘 助ひ國の開化を
- 又其物乎出須人爾在 氏波 又其の出品 出づるにありて
- 互爾其技乃秀牟事乎 勉 互に其の技術の 秀んことを勉め
- 自然事乃進乎見乎 以 氏 自然と事の進歩 を見るを以て
- 互爾勵心志事乎 競 氏 互に心を勵し 事を競ふ
- 外國爾 氏波必此乎 催志 外國にては必 催す此れを催し
- 大爾世乃爲爾謀賀 故爾 大に世の爲に 謀るがゆゑに
- 我國爾在 氏毛此事乎 企 我が國に在りて 此れを企む
- 大神乃鎮坐須 大神の鎮り 坐す
- 茲爾事始式乎 舉止爲 氏 茲に開會の式 舉行する
- 平介久安介久聞食 氏 解上に あり
- 開行布限乃内波 開會の日 限中は

- 日爾異爾茂榮爾榮行 氏 日に繁昌に 繁昌し行きて
- 棟高久揭志旗乃彌高爾 棟に高く掲し旗 彌高の如く
- 來觀留人數乃彌多爾 來たり觀る人數 彌多の如く
- 安久平爾令事竟給 止 安く平に事を 止ら令めませと

- 其聞延乃高良牟事 波 其の聞えの高 良牟事波くあらん事は
- 列志品乃賣禮行牟事 波 陳列の品の賣 禮行牟事波
- 異事無久忌敷事無久 異しことなく忌 敷しことなく

作 例

何々神社乃御前爾白左久其事柄乎百度聞與里毛一度此乎見乃優爾
 波及須止唐國人毛言傳志如久世爾無有限留物事乎悉聞氏知得牟波
 難業奈禮波集氏此乎令知乎善止志諸共爾境乎不越志氏他處乃物乎
 見每人爾海乎不渡志氏外國乃物乎知人乃誘智比國乃開留乎助又其
 物乎出牟人爾在 氏波互爾其技乃秀牟事乎勉相共爾競比勵 氏自然物
 乃進乎見乎以 氏外國爾 氏波必此乎催志大爾世乃爲爾謀爾故爾我國
 爾在 氏毛此事乎企今年第何回何々會乎大神乃鎮坐須此市内爾開支

茲爾事始式乎舉止爲氏禮代乃物奠氏其由乎令奏給事乎平介久安介
 久聞食氏自今始氏開行布限乃內波日爾異爾茂榮爾榮行氏其聞延乃
 高良牟事波棟高久揭志旗乃彌高爾列志品乃賣禮行牟事波來觀留人
 數乃彌多爾異事無久忌敷事無久安久平爾令事竟給止恐美恐美毛白
 須。

物品陳列所開始

此は、世に物品の陳列所を設け、其の開始式を擧ぐるに際し、配置整然、觀者の
 日夜縱觀購求に便なるを以つて、同所の益々隆盛ならむ事を冀ふ事なり。依りて
 其の意を述ぶべし。

- 製出品毛人知不波不求製出したる品も人のしらざれば
- 欲者毛不見物爾波心不動欲する者も見ざる物に心動かす
- 此故爾廣久人爾示志此の故に廣く人に示し
- 世爾不示留物波人不知世に示さざる物に人知らず
- 不見物波購留爾心薄志見ざる物も購求するに心うすし
- 是以氏普久此乎示志是を以つて普く此れを示し

- 普久欲者爾商牟事乎思普く欲する者に商はむ事を思ひ
- 此度有志者胥謀此の度有志の者相謀り
- 麗久館乎此乃爾造里麗しく館を此の處に造り
- 種々乃織物無限制器種々の織物限り無き器
- 身乃裝比饒乃品乎始米身の裝飾品を始めて
- 重支禮爾用留物與里重き禮式に用ふる物より
- 足袋手拭乃末爾至麻氏足袋手拭の末に至るまで
- 類爾依氏區劃乎定米類に依りて區劃を定め
- 限毛無久敷毛知良爾限りも知らず敷毛も知らず
- 右爾左爾就比氏分間知右に左に比しき間を分ち
- 彼處爾揭介此處爾列彼處に揭介し此處に列ね
- 世人乃夜晝止無久來氏世人の夜晝と無く來て
- 共俱來氏可樂觀取設氏共どもに來りて取設けて
- 廣久人爾販牟事乎謀廣く人にうらむ事を謀り
- 新爾此館乎築支新に此の館を築き
- 織物染物身乃饒里織物染物身は饒り
- 漆器陶器弄物乎始米漆物陶物或は弄物を始め
- 其禮事爾關禮留重支品與里其の禮式に關する品より
- 常用留桶盥乃末爾至麻氏常用の留桶盥は麻氏に至るまで
- 上爾下爾右爾左爾上に下に又右に左に
- 比支爾就氏間分知比しき間を分ち
- 上爾下爾依類氏定區米上に下に依りて區を定め
- 高久揭介廣久列高く介し廣く列ね
- 日爾異爾世人乃來氏日に異る世人の來りて
- 心乃儘爾可樂觀取設氏心の儘に樂み觀取設けて
- 今日乃生日乃足日爾今日乃生日乃足日爾

- 茲爾事始式乎舉止爲氏△解上に
- 奉言祝留狀乎解上に
- 平介久安介久聞食氏解上に
- 自今此館乃賑比著久今より此の館の賑ひ著る
- 逐日氏榮行牟事波逐日に榮え
- 展列多留綾織乃自映毛灼列れたる錦も灼る
- 年々乃利益乃多良牟事波年々の利益の多大なる
- 取並志品物乃自數毛多並べたる品物の數より多大
- 彌遠爾彌廣爾遠く廣く
- 茂志如八桑枝久可立榮茂りたる多くの桑の枝の如く立ち榮ゆる

作例

此所爾開奈須事業乎守給布神乃御前爾白左久製出品毛人不知波不求欲者毛不見物爾波心不動此故爾廣久人爾示志普久欲者爾商牟事乎思此度有志者胥謀氏新爾此館乎築支織物染物身乃飭里漆器陶器弄物乎始其禮事爾關禮留重支品與里常用留桶盟乃未爾至麻氏上爾下爾右爾左爾類爾依氏區劃乎定米比支爾就氏間乎分知高久掲介廣久列日爾異爾世人乃來氏心乃儘爾可樂觀取設氏今日乃生日乃足日

爾茲爾始事式乎舉止爲氏捧物奠氏奉言祝留狀乎平介久安介久聞食氏自今此館乃賑比著久逐日氏榮行牟事波展列多留綾織乃自映毛灼年々乃利益乃多良牟事波取並志品物乃自數毛多彌遠爾彌廣爾茂志如八桑枝久可立榮守惠美幸給止恐美恐美毛白須

共進會開始

此は、世に共進會を催し、各自の丹誠を凝せし物品を出陳し、此れが販賣をも爲すを以つて、其の開始に際し、該會の隆盛と技術の進歩せむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述べし。

- 每人爾其業乎競波人々の其の業を競ふ
- 人皆乃營業業乎勵波人皆の營む業を勵ます
- 其事乃進牟基爾志氏其の事の進歩の基にして
- 其國乃譽乎廣留基爾志氏其の國の譽を廣むる基にして
- 古志人乃手振乎迤里古の人の手振り
- 遠久古人乃技乎搜里遠く古人の技を搜る
- 凝思志琢力支思をこらし力なみ
- 常爾均並乃中爾安良波須常に均し並の中安んぜず

○必其群與里秀牟止勤乍必ず其の群より秀んと勤めつ

○他人乃未不知事乎毛知里他人の未だ他人の未だ知らざる事なり

○世上爾未無事乎毛顯世上に未だ無き事なり

○天下乃進步乃勢乎成波天下の進步の勢を成すは

○此事乎盡止不盡止爾有禮波此の事を盡すと盡さざるに有れば

○今波内外乃國乃無別今内外の國の別なく

○其道乃人々爾告其の道の人々々に告げて

○物出閉支人々爾告物を出す可き人々々に告げて

○此乎一處爾取列此れを一處に取つらるる

○人爾毛令觀自毛比可見人に見せ己も比に見る

○或波其事乃秀多留者爾波或は其の事乃秀多留者に波

○特爾賞狀乎授行特に賞狀を授け行ふ

○此度有志者相謀此の度有志の者の相謀りて

○警氏人爾優牟事乎勵乍警氏人爾優牟事乎勵乍

○己賀不知事波質氏知里己が知らざる事なり

○世爾未不見事乎毛顯世に未だ見ざる事なり

○其國乃開行勢乎成波其の國の開け行の勢を成すは

○此事乎行止不行止爾有禮波此の事を進行と不行とに有れば

○廣久此會乎興志廣く此の會を興す志

○普久其物乎令出普く其の物を令出さす

○廣久其品乎令出廣く其の品を令出さす

○是乎此會爾取列是れを此の會に取列りて

○又其技乃優多留者爾波又其の技の優多留者に波

○此爾賞狀乎毛與此れに賞狀を與へて

○深久此途乎勵須賀故爾深く此の途を勵む須賀故に

○如此斯事乎催志如此の事なり催す志

○茲爾事始式乎舉止為茲に事始式を舉げ止むる爲

○平介久安介久聞食平介久安介久聞食

○其効乃世爾高牟事波其の効乃世に高牟事に波

○物出世留人々乃譽波物出世留人々に譽を波

○高久悠久美名乎可耀高久悠久美名乎可耀

○奉言祝留狀乎奉言祝留狀乎

○自今後波此事愈榮自今後波此事愈榮

○揭志旗乃自靡毛高久掲げし旗乃自靡毛高久

○施世留彩色乃自映毛灼久施せし留彩色乃自映毛灼久

作 例

此會乃事乎守給布神乃御前爾白左久每人爾其乃業乎競波其事乃進牟基爾志氏古志人乃手振乎迪里凝思志琢力支常爾均並乃中爾安良波須必其群與里秀牟止勤乍他人乃未不知事乎毛知里世上爾未不見事乎毛顯氏天下乃進步乃勢乎成波此事乎盡止不盡止爾有禮波今波内外乃國乃無別廣久此會乎興志其道乃人々爾告氏普久其物乎令出此乎一處爾取列氏人爾毛令觀自毛比可見又其技及優多留者爾波賞

狀乎毛與氏深久此途乎勵須賀故爾此度有志者相謀氏殊此事乎催志
 茲爾事始式乎舉止爲氏捧物奠氏奉言祝留狀乎平介久安介久聞食氏
 自今後波此事乃愈榮氏其効乃高良牟事波揭志旗乃自靡毛高久物出
 世留人々乃譽波施世留彩色乃自映毛灼久高久悠久美名乎可耀久守
 惠美幸給止恐美恐美毛白須。

競馬會開始

此は、世に競馬會を興し、馬匹の改良を謀り、國家の軍事、及び常用の供給に資
 せむと欲するが故に、其の開始式を舉ぐるに際し、此の目的を全うして、益々該
 會の隆盛ならむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述べべし。

- 馬乃成立乎良久爲波馬の生立を立派にするは
- 施良種氏能久養爾在里其種を施してよ其の種馬を養ふに在り
- 力乎其養事爾盡波力を其の馬を養ふ事につくすは
- 奇支馬乎作出爾波作り出すにば
- 其種乎撰止能久養止爾在里其の種馬を撰ふに在り
- 力乎此事爾盡波力を此の馬を養ふ事につくすは

- 時々集氏爲競馬爾在里時々集めて競馬を爲すに在り
- 是以自古此事乎勵志是を以つて古より此の事を勵し
- 朝廷爾定多留旋乎始米朝廷にて定められたる旋を始め
- 武士禮比鄉曲乃神祭爾毛武士の禮又村の神祭
- 外國乃者爾比氏波外國の者に比ては
- 渾乃事乃狀行足波須渾ての事の狀充分ならず
- 馬乃成立毛亦雙類久馬の成立も亦比類し難く
- 其思比深志止氏その思ひ深しとて
- 官乃令志懇爾在禮波官の令志懇切に有れば
- 先頃與里乃獎米懇爾在禮波先頃より獎勵も懇切に有れば
- 有志人々諸相謀氏有志の人々の相謀て
- 此度斯會乎結比此の度斯の會を結び
- 奉言祝留狀乎解上奉言祝留狀乎解上
- 集氏時々爲競馬爾在里集めて時々に在り
- 我國波自古此事乎重志我が國は古より此の事を重んじ
- 朝廷乃式止定志乎始氏朝廷の式と定められたる旋を始めて
- 不怠行比來毛怠り來りし
- 均並爾波言難久均し並には言ひ難く
- 馬乃成立毛亦不及馬の生立も及ばず
- 殊爾戰場爾臨氏殊に戰場に臨んで
- 先頃與里此事乎盛爾爲止先頃より此の事を盛んに爲すに
- 官爾波此事乎大爾爲止官には此の事を大に爲すに
- 爲世爲國止其事乎畏美世の爲國の爲と其の事を畏み
- 大爾其事爾力乎盡牟大に其の事に力を使い盡す
- 茲爾事始式乎舉止爲氏茲に開會の式を舉行すると
- 平介久安介久聞食氏解上

○自今將來此會乃無亂事今より將來此の會の亂るること

○此乘場乃廻氏無端如久此の馬場の廻りて端なきが如く

○拍手奈須摺亮乃自響毛高久拍手の音の響きの高きより

○此會乃榮毛茂榮爾此の會の榮も繁昌に

○彌遠爾世爾行禮牟事波遠く世に行はれむ事は

○天下爾其聞延乃高良牟事波天下に其の聞えの高か

○彌益爾馬乃成立麗久彌益々馬の成立の麗しく

○外國乃業爾毛可立優久外國の業にも立ち優るよう

作例

競馬乃事乎守給布神乃御前爾白左久馬乃成立乎良久爲波施良種氏能久養爾在里力乎其乃養事爾盡波時々集氏競馬乎爲爾在里是以氏自古此事乎勵志朝廷爾定多留掟乎始米武士禮比郷曲乃神祭爾毛不怠行比來志毛外國乃者爾比氏波均並爾波言難久馬乃成立毛亦不及殊爾戰場爾臨其思比深志止氏先頃與里此事乎盛爾爲止官乃令志懇爾在禮波爲世爲國止其事乎畏美有志人々諸相謀氏大爾其事爾力乎盡牟止此度斯會乎結比茲爾事始式乎舉止爲氏捧物奠氏奉言祝留狀

乎平介久安介久聞食氏自今將來此會乃無亂事久彌遠爾世爾行禮牟事波此乘場乃廻氏無端如久天下爾其聞延乃高良牟事波拍手奈須摺亮乃自響高久彌益爾馬乃成立麗久此會乃榮毛茂榮爾外國乃業爾毛可立優久守惠美幸給止恐美恐美毛白須

相撲會開始

此は、世に相撲の催し盛なるが故に、此れが會を結び、其の開始式を擧ぐるに際し、該技は、體力を養ひ心を壯ならしめ、尙武の道に資するもの大なるを以つて、益々隆榮を極めむ事を希ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

- 人皆身乎壯志養力比各自に身を壯健にし體力を養ひ
- 世爾在留人力乎養比世に在る人の力を養ひ
- 身乃成立乎強久志身のなり立ち強くし
- 心乎壯志身乎令武心を壯にし身を武を建からせ
- 互爾其優劣乎競波互に其の優り劣り競ふ
- 彼毛我毛共爾競氏彼れも我れも共に競ふ
- 心乎武加良令米心をたけ加ふ良令米
- 身乃幸多奈留耳奈良須身の幸ひ多き留耳奈良須

- 其幸乃多支耳奈良須その幸の多き耳ならず
- 一旦戰爾臨一旦戰に臨みて
- 用留事不協爾及用留事不協に及ぶ
- 手力乎振手力に振ふ
- 遂爾我勝乎得者奈禮波遂に我が勝るを得る者なれば
- 遠津神代與里此事乎傳遠津神代より此の事をつたへ
- 朝廷乃重支式典止定朝廷の重支式典を定めて
- 顯世乃者乃怠間敷業止此の世の者の怠りたる間敷業を止む
- 今現爾至麻今の現時に至るまで
- 到處爾催禮到處に催され
- 愈此事乎令榮止此の事を榮えしめて止む
- 茲爾事始式乎舉止為茲に開式を舉行するとして
- 平介久安介久聞食解上にあり
- 臨戰取兵器乃臨戰に取る兵器の
- 取留武器乃不能爾及取留る武器の及ぶに
- 力乃限里其敵乎打伏力に限り其の敵を打ち伏せ
- 危命乎保得危き命を保ち得て
- 遂乃勝利乎收者奈禮波遂に勝利を得る者なれば
- 玉垣宮乃御代與里波玉垣宮より御代と里波
- 男多留者乃可勵業止男多留る者なり可勵業を止む
- 掟給比獎給志爾依里掟給ひ比獎給ひ志爾依里
- 今乃世迄毛此行來今の世まで毛此行來
- 不絕催禮絶えず催され
- 此度斯乃相撲會乎結比此度の相撲會を結び
- 奉乞祈留狀乎奉乞祈留の狀を
- 自今後波彌遠爾榮行今より後波彌遠爾榮行
- 取開多留相撲場乃彌廣爾取開きたる相撲場の如く彌々廣く
- 打鳴須鼓音乃彌高爾打鳴る須鼓の音の如く彌々高く

- 天下爾歡迎良禮天下に歡迎せ
- 其譽乃高久聞延其の譽の高く久聞延
- 内國外國爾毛鳴渡可久内外國にも鳴渡る可久

作 例

相撲乃業乎守給布神等乃御前爾白左久人皆身乎壯志養力比互爾其優劣乎競波身乃成立乎強久志心乎武加良令米身乃幸多奈留耳奈良須臨戰取兵器乃用留事不協爾及波力乃限里其敵乎打伏世危命乎保得遂乃勝利乎收留者奈禮波遠津神代與里此事乎傳閉玉垣宮與里波朝廷乃重支式典止定男多留者乃可勵業止掟給比獎給志爾依里今現爾至麻行來到處爾催禮有賀故爾愈此事乎令榮止此度斯乃相撲會乎結比茲爾事始式乎舉止為種々乃物奠奉乞祈留狀乎平介久安介久聞食自今後波彌遠爾榮行天下爾歡迎良禮奉

事波取開多留相撲場乃彌廣爾其譽乃高久聞延牟事波打鳴須鼓音乃
彌高爾内國外國爾毛鳴波可久守惠美幸給止恐美恐美毛白須

銀行開始

此は、世に銀行を起し、天下の財政、時期の難易を融和し、以つて國家民人の福利を謀るが故に、其の開始式を舉ぐるに當り、此の銀行の名聲と業務との益々盛ならむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述べし。

- 國乃富行久事毛國の富み行
- 御代乃足行久事毛御代の足り
- 顯世乃財貨不滯融此の世の金
- 時乃惡乎見氏波時の不景氣
- 年乃豐奈留爾逢氏波年の豐饒なる
- 立廻里常爾能行禮氏金の立廻り常
- 大御代乃榮乎成毛大御代の榮
- 國乃富榮牟事毛國の富み榮
- 世中乃財貨不片寄世中の金融
- 其困難乎救比其の困難
- 物價乎平爾爲志物の價格を
- 每爾其立廻里能行禮氏毎に金の立廻

- 年止時止乃難易乎毛年と時との
- 或波國止國止乃名乎以國と國との名を
- 或波我國與里他國爾對國より他國
- 或波不意乃事世爾起あるは不意の事
- 或波難止事世爾起あるは止み難き
- 正久此事乎受持正しく此の事
- 其途爾當賀故爾其の途に當
- 常爾其財乃扱乎常に其の財貨の
- 朝夕爾利益乎謀里朝夕に利
- 己毛潤比人乎毛幸己も潤ひ人
- 萬代爾國榮牟基乎志萬代に國の
- 此度有志者諸相謀此の度有志者
- 茲爾事始式乎舉止茲に開店の式
- 豐留止否止乃時乃價乎毛平豐なるも否むるも平均に
- 他國爾對氏事行爾他國に對して
- 其事乎成志行爾その事を成
- 此乎濟爾甚急介留此を濟すに甚
- 疾久其乎行濟牟疾く其を行ひ
- 專此事乎扱比専ら此の事を
- 其責乎盡賀故爾其の責を盡
- 每爾奇支手立乎凝毎にすむれし
- 無間無時利益乎謀里間なく時なく
- 我人共爾惠得我も人も共
- 治御代爾國榮牟基治まる御代に國
- 此何々銀行乎起志此の處に銀行
- 奉言祝留狀乎解上に

- 平介久安介久聞食氏解上にあり
- 無亂事久無衰事久衰ふる事なく
- 遠久悠久世爾榮牟事波遠く悠しく世に榮えむことは
- 其譽乃高良牟事波其の譽の高か
- 常磐爾堅磐爾常に磐らむ磐又
- 自今將來此業乃此の業の今より將來
- 天下爾事廣久行禮天下に事廣く行れつ
- 其出入人乃自繁毛其の出入の人の繁毛
- 新建志館乃自棟毛高久新建し館の棟より高く
- 無限久榮行可久無限なく榮え行くこと

作例

此業乎守給布神乃御前爾白左久國乃富行久事毛大御代乃榮乎成毛
 顯世乃財貨不滯立廻里常爾能行禮氏年止時止乃難易乎毛能志豐留
 止否止乃時乃價乎毛平志或波國止國止乃名乎以氏他國爾對氏事行
 爾或波不意事世爾起氏此乎濟爾甚急介留時爾正久斯事乎受持氏其
 途爾當賀故爾常爾其財乃扱乎妙志朝夕爾利益乎謀里己毛潤比人乎
 毛幸氏萬代爾國榮牟基乎志開牟止此度有志者諸相謀氏此何々銀行

乎起志茲爾事始式乎行止爲氏捧物奠氏奉言祝留狀乎平介久安介久
 聞食氏自今將來此乃業乃無亂事久無衰事久天下爾事廣久行禮牟遠
 久悠久世爾榮牟事波其出入人乃自繁毛繁久其譽乃世爾高良牟事波
 新建志館乃自棟毛高久常磐爾堅磐爾無限榮行可久守惠美幸給止恐
 美恐美毛白須

織物會社開始

此は、古來織物を業とする者許多なるも、開明の機運に促されて、會社を結ぶ必
 要を感じ、其の開始式を舉ぐるに當り、該業の發達と、利益の甚大ならむ事とを
 冀ふ事なり。依りて其の意を述べし。

- 蒼生諸乃世在氏人民もろく
- 世爾人草乃繁里來氏世に人草の繁り來りて
- 安久穩爾有經留事波安く穩に有り
- 炎暑爾堪閉炎暑に堪へ
- 夏乃暑爾堪冬乃寒乎夏の暑に堪へ
- 安久恙奈久住行久事波安く恙なく住

- 機織乃業有機織の業ありて
- 身爾纏布衣乎製留身にまとふ衣を製る
- 能久其道乎盡乎以奈里能く其の道な盡すを以つてなり
- 此故爾古天神乃此の故に古天神の
- 忌機屋爾高機乎立忌少機屋に高機を立て
- 此道乎開氏授給志與里此の道を開きて授け給ひしより
- 世爾普久傳里來志乎世に普く傳はり來りしを
- 今波外國乃手振乎毛用今は外國の手振をも用
- 其利益乃大留事その利益の大きな事
- 此度有志者相謀此の度有志者の相謀りて
- 茲事始式乎行止爲茲に開會の式を行はんとして
- 平介久安介久聞食平介久安介久聞食
- 此會社與里織出須此の會社と與里織出須
- 綾錦乃光留綾錦の光留
- 麗支綾有光留麗しき綾織物光留
- 繪倭文乃映著久映著久の映の著しる久
- 内外乃國人爾見珍重内外國人に珍重せられ
- 木綿栲布乃類爾至麻木綿栲布の類に至るまで
- 日爾異爾其譽毛廣日々に其の譽も廣く
- 彌遠長爾榮行可久遠く長く榮え行くよう
- 身爾夏冬乃衣乎纏身に夏冬の衣をまとひ
- 機織乃業傳機織の業傳
- 專其事乃行專其の事を行は
- 機殿乎建棚機乎据機殿を建て棚機を据
- 此業乎開氏遺世給志與里此の業を開き世に遺し給ひしより
- 次々爾承傳來志乎次々に承けて傳
- 後波吳漢乃織技後には吳國漢國の織技
- 其價乃貴事其の價の貴きこと
- 富國乃一止毛爲禮富國を爲すの一止毛爲禮
- 此織物乃會社乎起志此の織物の會社を起し
- 奉言祝留狀乎奉言祝留狀
- 自今將來自今將來
- 種々乃織物波種々の織物波

作例

- 織物乃業乎守給布神乃御前織物の業を守り給ふ神の御前
- 乎凌支安久穩爾有經留事乎凌支安久穩爾有經留事
- 其道乎盡乎以奈里其の道な盡すを以つてなり
- 世給志與里次々爾承傳來志乎世に給志與里次々に承けて傳
- 織物乃業乎守給布神乃御前織物の業を守り給ふ神の御前
- 乎凌支安久穩爾有經留事乎凌支安久穩爾有經留事
- 其道乎盡乎以奈里其の道な盡すを以つてなり
- 世給志與里次々爾承傳來志乎世に給志與里次々に承けて傳
- 綾錦乃光留綾錦の光留
- 麗支綾有光留麗しき綾織物光留
- 繪倭文乃映著久映著久の映の著しる久
- 内外乃國人爾見珍重内外國人に珍重せられ
- 木綿栲布乃類爾至麻木綿栲布の類に至るまで
- 日爾異爾其譽毛廣日々に其の譽も廣く
- 彌遠長爾榮行可久遠く長く榮え行くよう
- 綾錦乃光留綾錦の光留
- 麗支綾有光留麗しき綾織物光留
- 繪倭文乃映著久映著久の映の著しる久
- 色著支繪有映留色著しる支繪有映留
- 絶穀紗諸止眼毛晴爾絶穀紗諸止眼毛晴爾
- 普久世爾購禮行普久世爾購禮行
- 年々爾其榮毛高久年々に其の榮えも高く

用兵其價乃貴事富國乃一止毛爲禮波此度有志者相謀兵此織物乃會社乎起志茲爾事始式乎行止爲兵捧物奠兵奉言祝留狀乎平介久安介久聞食兵自今將來此乃會社與里織出須種々乃織物波綾錦乃光里麗久世爾其譽乎耀志繪倭文乃映著久內外乃國人爾見珍重絶穀紗諸止眼毛晴爾木綿袴布乃類爾至麻兵普久世爾購禮行兵日爾異爾其譽毛廣久年々爾其榮毛高久彌遠爾榮行可久守惠美幸給止恐美恐美毛白須。

陶磁會社開始

此は、古來陶磁を業とする者、開明の機運に促されて、會社を結成の必要を感じ、其の開始式を擧るに當り、該事業の發達と、利益の甚大ならむ事とを冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

○世爾波食物乎調閉物世には食

○酒汲美物盛爾酒を汲み物を盛るに

- 人乃世爾食物乎盛里世人の食物を盛り
- 皆其器有留慣爾みな其の定まりたる器物ある慣にて
- 神乃御代與里其御業傳里神代より其の御業傳り
- 泥爾兵作里火爾兵燒成志泥にて作り火にて燒き成志
- 天平瓮嚴戶廳和平瓮は平形の土器天は稱辭なり嚴戸は祭事に用ゐる土器廳和は酒を盛る大きな瓶
- 不調事無久不備事無久調はさることなく備はさることなく
- 後爾波韓唐乃技與里後には韓國唐の技より
- 又波韓國唐土乃技與里又は韓國唐の土の技より
- 祭及禮爾土器乎用外波祭典及び禮式に土器を用ゐる外
- 家内乃者乃器乎始米家内の者の器を始めて米器を始め
- 饗乎賓客爾行布設介饗賓客に布設介行ふ設け
- 小床乃備閉小床の備物
- 每人爾購比購比人ひとひとに購ひ求め
- 酒汲美物備留爾酒汲み物を備ふるに
- 必其乃器以爲留事爾必ず其の器を以て爲ることに
- 神乃遺志御業傳里神の遺し御業の傳り
- 以土作里以火燒成志土を以て作り火にて燒き成志
- 天手挾由加物諸手挾は手づくれ土器天は稱辭なり由加物は祭事に用ゐる器
- 總兵調不備留事無久總べて調ひ備はさることなく
- 今波外國乃手振毛加兵今は外國の手振も加はりて
- 遂爾外國乃技毛加兵遂に外國の技も加はりて
- 專陶器爾不依者無久専ら陶器に依らざる者なく
- 常爾人々乃用留器與里常に人々の用ゐる器より
- 來客乎饗須留設介來賓を饗應する設け
- 翫物乃末爾至麻兵翫物の末に至るまで
- 家々爾儲留賀故爾家々に儲け留るが故に

- 貴家波更爾毛不言貴家は更に言はず
- 其業毛進美其價毛貴久其の業も進み其の價も貴く
- 此度斯乃此のたび
- 茲爾事始式乎行止爲氏△解上此の事は式より行止爲氏に解上
- 平介久安介久聞食氏解上平介久安介久聞食氏に解上
- 世爾立榮氏世にたちまかえて
- 製出物乃苦慮無有事久製出物の苦慮無有事久
- 高杯瓊瓊瓶壺爾至麻氏高杯、瓊瓊瓶、壺、至麻氏
- 名細支其譽波名の美はし
- 無限支其利益無限の利益は
- 遠久悠久立榮行可久遠く久しく立ち榮え行く可久

作例

- 賤者毛每人爾求賀故爾賤き者も人ごとく求むるが故に
- 國譽止富止乎至補乎以氏國の譽も富も止むるに以て
- 陶磁乃會社乎結比陶磁の會社を結び
- 奉言祝留狀乎奉言祝留狀に
- 自今後波彌益爾今より後は彌益に
- 彼築立志彼の築き立し
- 瓊蓋年血碗乎始氏瓊蓋、年血碗、始氏
- 廣久普久賣弘里行氏廣く久しく賣弘里行氏
- 並多留花瓶乃自麗毛麗久並べたる花瓶の麗しきより麗く
- 列多留品乃自數毛多爾列たる品の數より多し

陶磁乃業乎守給布神乃御前爾白左久世爾波食物乎調閉酒汲美物盛爾皆其器有留慣爾氏神乃御代與里其御業傳里以土作里以火燒成志天平瓮嚴戶應和天手挾由加物諸不調事無久不備事無久後爾波韓唐乃技與里今波外國乃手振毛加氏祭及禮爾土器乎用留外波專陶器爾不依者無久家內乃者乃器乎始米饗乎賓客爾行布設介小床乃備閉翫物乃末爾至麻氏每人爾購比家々爾儲留賀故爾其業毛進美其價毛貴久國譽止富止乎至補乎以氏此度斯乃陶磁乃會社乎結比茲爾事始式乎行止爲氏捧物奠氏奉言祝留狀乎平介久安介久聞食氏自今後波彌益爾世爾立榮氏彼築立志彼の築き立し窯爾禍事無久製出物乃苦慮無事無久瓊蓋年血碗乎始氏高杯瓊瓊瓶壺爾至麻氏廣久普久賣弘里行氏名細支其譽波並多留花瓶乃自麗毛麗久無限支其利益波列多留品乃自數毛多爾遠久悠久立榮行可久守惠美幸給止恐美恐美毛白須

漆器會社開始

此は、古來漆器を業とする者、開明の機運に促されて、會社を結成する必用を感
じ、其の開始式を舉るに當り、該業の發達と、利益の甚大ならむ事とを冀ふ事な
り。依りて其の意を述ぶべし。

- 世爾有物爾漆志氏用事波世にある物に漆して用
- 遠代爾興志古事爾氏古代に興りし古事にて
- 其事乃進爾隨氏其の事の進むに隨ひて
- 漆工率氏此業爾奉仕漆工を率ゐて此の業に奉仕し
- 神寶乎始米朝廷乃御物神寶を始め朝廷の御物
- 殿内乃飭里禮具兵器與里殿内の飭器禮具及び兵器
- 兵器乃總兵與里兵器のすべり
- 取兵用留萬器爾至麻氏取て用ふる萬の器具に至るまで
- 物爾漆乎塗氏用留事波物に漆をぬりて用ふることは
- 古志世爾事興里志業爾氏古き世に事興るはじまりし業にて
- 何時知良爾漆部連有氏何時と知らず漆部連ありて
- 其事乃日爾異爾進隨爾其の事の日々異るに隨ひ
- 神寶朝廷乃御物乎始米神寶また朝廷の御物を始め
- 禮乃具殿内乃飾里禮式の器具殿内の飾り
- 皇族諸臣人草諸乃皇族及び諸臣より人民の趨ての者
- 朱爾黑爾金銀乎以氏朱に黒に金に銀を以つて

- 赤爾黑爾青色爾赤に黒に青色に
- 梨地爾塗成志梨地にぬり成し
- 他國乃技爾毛秀氏他國の技にも秀で
- 異邦乃技爾毛立越異邦の技にも立ち越え
- 愈世爾貴留々乎以愈々世に貴るを以つて
- 尙此乃業爾力乎盡左波尙此の業に力な盡さば
- 一端止毛成賀故爾一端ともしな故に
- 斯乃漆器乃會社乎結比斯の漆器會社を結び
- 奉言祝留狀乎解上に
- 自今將來此會波今より往くさき此の會社は
- 年々爾收留利益毛多爾年々に收むる利益も多大に
- 朝夕爾蒙牟幸波朝夕に蒙り幸ふは
- 内外國爾聞延牟譽波内外國に聞え行かむ譽れば
- 或波金或波銀乎以氏或は金或は銀を以つて
- 蒔繪乎施志蒔繪を施し
- 外國々爾毛持外國の國々にも持
- 外國人毛不貴留無久外國人も貴るなく久ざらなく
- 此上爾其業乃巧乎盡左波此の上其の業の巧な盡さば
- 顯世乎可富支此の世な富すべし
- 此度何某伊解上に
- 茲爾事始式乎行止茲に開會式を行止
- 平介久安介久聞食氏解上に
- 常警爾堅警爾榮行氏解上に
- 每日爾得留利益毛多爾毎日得る利益も許多に
- 製出須塗色乃自映灼久製り出す塗物の色よりも灼る
- 施世留蒔繪乃自光麗久施せる蒔繪の光より麗しく

○遠久悠久萬代爾遠く久しく

○令立榮給止解上にあり

作 例

漆器乃業乎守給布神乃御前爾白左久世爾有物爾漆志氏用留事波遠
 代爾興里志古事爾爲氏何時知良爾漆部連有氏漆工率氏此業爾奉仕
 其事乃日爾異爾進隨爾神寶乎始米朝廷乃御物殿内乃飭禮具兵器與
 里皇族諸臣人草諸乃取氏用留萬器爾至麻氏朱爾黑爾金銀乎以氏梨
 地爾塗成志蒔繪乎施志他國乃技爾毛秀氏外國々爾毛持唯禮愈世爾
 貴留々乎以氏此上爾其業乃巧乎盡左波顯世乎可富支一端止毛成賀
 故爾此度何某伊斯乃漆器會社乎結比茲爾事始式乎行止爲氏捧物奠
 氏奉言祝留狀乎平介久安介久聞食氏自今將來此會波常磐爾堅磐爾
 榮行氏年々爾収留利益毛多爾朝夕爾蒙牟幸波製出須塗色乃自映灼
 久内外乃國爾聞延牟譽波施世留蒔繪乃自光麗久遠久悠久萬代爾令

立榮給止恐美恐美毛白須

製糸會社開始

此は、古來國民の皆各自に行ひ來し業なるも、開明の機運に促されて、會社を結ぶ必要を感じ、其の開始式を擧ぐるに當り、該業の發達と、利益の甚大ならむ事とを冀ふ事なり。依りて其の意を述べし。

- 養蠶乃爾乎作志後波養蠶の時は
- 專此乎抽氏引糸支専ら此を抽きて
- 其乎織物爾織成止共爾その織物を織
- 打紐爾組緒爾縫糸爾打紐に組緒
- 種々爾用行氏用ひ行きて
- 世爾缺久不可物爾志有禮波世に缺く物
- 古天神乃古へ天に
- 養蠶乃時果志後波養蠶の時は
- 爾乎集氏絲爾引支爾を集めて
- 此乎織物爾打紐爾此を織物
- 又波組緒爾縫絲爾又組緒
- 萬事爾用成氏萬事に用
- 世爾無留不可留物奈禮波世に無く物
- 此業乎開氏遺給與里此の業を開きて世

○三河爾波三河の國

○世波種々爾行來乎世はさましく

○今波外國乃業毛加來氏今は外國の業

○古乃手振乃夫與里毛奇久古の手振の

○每日爾製出數毛無限久日々製出の數

○日爾異爾製出數甚多爾日々製出する

○該價愈貴久其利益大志其の價も愈々

○今度有志者胥謀氏此の度有志の

○茲爾事始式乎行止爲氏△茲に開會式

○自今後此會社乃今より後此の會社の

○長久悠久榮牟事波長久是く久しく

○年々爾收牟利益波年々々々收獲

○彌遠長爾茂榮爾解上

○明曳乃糸乃古事乎傳閉明ら曳きの糸の

○人波皆自良行來乎人はみな自ら

○近久外國乃手振加氏與里近く外國の

○其業愈奇乎極氏奇しきを極めて

○其利益毛愈大留事爾其の利益もいよ

○悉久外國爾賣出志乍悉く外國に賣

○天下乎富左牟一乃基奈禮波天下を富ま

○此製絲乃會社乎興志此の製糸の

○奉言祝留狀乎平介久安介久聞食氏解上

○萬代爾動事無久萬代に動

○打廻留棹乃無端賀如久打ち廻る棹の

○掛小車氏引糸乃如繁久小車に掛けて引

○令立榮給止解上

作 例

製絲乃業乎守給布神乃御前爾白左久養蠶乃繭乎作志後波專此乎抽
 氏引糸支其乎織物爾織成止共爾打紐爾組緒爾縫糸爾種々爾用行氏
 世爾欠久不可物爾志有禮波古天神乃此業乎開氏遺給與里三河爾波
 明曳乃糸乃古事乎傳閉世波種々爾行來志乎今波外國乃業毛加來氏
 古乃手振乃夫與里毛奇久毎日爾製出須數毛無限久其利益愈大留事
 爾氏悉久外國爾賣出志乍天下乎富左牟一乃基奈禮波今度有志者胥
 謀氏此製絲乃會社乎興志茲爾事始式乎行止爲氏捧物奠氏奉言祝留
 狀乎平介久安介久聞食氏自今後此會社乃萬代爾動事無久長久悠久
 榮牟事波打廻留棹乃無端賀如久年々爾收牟利益波掛小車氏引糸乃
 如繁久彌遠長爾茂榮爾令立榮給止恐美恐美毛白須

染色會社開始

此は、古來染色を業とするも、開明の機運に促されて、會社を結ぶ必要を感じ、其の開始式を擧ぐるに當り、該業の發達と、利益の甚大ならむ事とを冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

- 世爾織出須織物乎始米世に織り出す織物を始め
- 人乃身爾纏布織物人の身に纏ふ織物
- 此乎有映留色爾染此れを映あらしめる色に染め
- 衣爾衾爾種々物爾作里衣に衾に種々の物に作り
- 襲氏可照着氏有映者止志襲ひて照る者ありて映る者止む志
- 其世狀毛明爾示業奈禮波其の世の狀を明に示す業なれば
- 神代乃昔此業乎開支神代の昔に此の業を開き
- 黑支赤支青支爾衣乎毛染黒き赤き青き支に衣を染め

- 其糸乃類爾至麻氏其の糸の類に至るまで
- 又其糸乃類爾至麻氏又其の糸の類に至るまで
- 此乎麗久種々爾染普久廣久用可久此を麗しく種々に染め用ひ可く久
- 專時乃好人乃求爾滿氏專時の好みと人の求めとを満す
- 時止人止乃好乎顯志時と人と好むと顯し志
- 過來世乃狀毛示者奈禮波過る來し世の狀も示す者なれば
- 衣乎毛黑青赤乃色々爾染衣を黒く青く赤く染め
- 雅美乎街志神事乃隨爾雅美を街にし神事を隨ふ

- 神柄止雅美乎街志隨爾神柄ながら雅美を街し隨ふ
- 晴事乃極止世爾傳里氏晴事の極に世に傳はりて
- 朝廷爾波司有氏其業乎研朝廷に波司ありて其の業を研
- 無限數知良爾染成志毛無限の數を知らし染め成し志毛
- 凝思込心彼乎取此爾習凝思込心彼れを取り此れに習
- 今波外國人毛愛離乍今は外國人も愛離し乍
- 遠久外國爾毛弘里行氏遠く外國にも弘里行きて
- 尙此業乃聞延世爾高加禮止尙此の業の聞え世に高かれ
- 此染色乃會社乎結比此の染色の會社を結び
- 奉言祝留狀乎解上奉言祝留狀を解上
- 自今後波解上に
- 遠久悠久榮行牟事波遠く久しく榮行牟事波
- 其聞延乃高加良牟事波其の聞えの高加良牟事波

- 顯世乃晴事止承傳來氏此の世の晴事と承傳來て
- 公爾波司乎立氏其業乎進公には司を立て其の業を進め
- 紅紫乃貴齒纈褐色奈止紅紫、紫、齒、纈、褐、色など
- 果波庶人乃手爾毛移者加良果は庶人の手にも移り加良
- 花鳥木草乃繪乎毛染顯氏花鳥木草の繪を染め顯
- 其譽毛價毛彌益爾貴禮波其の譽も價も彌益も貴禮も波
- 其譽毛高久價毛貴禮波其の譽も高く價も貴禮も波
- 有志者相謀氏有志者共に相謀りて
- 茲爾事始式乎行止爲氏茲に開會式を行行する
- 平介久安介久聞食氏解上に
- 此會社乃無動事久此の會社の無動事なく
- 乾場乃綱乃自長毛長久乾場の綱の長きより長く
- 染出色乃自映毛灼久染出す色の映久より灼く

○年々爾收留利益無限志年々に收むる利益の限りなくして 萬代爾立榮可久萬代に立ち榮ゆるよう

作例

染色乃事乎守給布神乃御前爾白左久世爾織出須織物乎始米其糸乃類爾至麻氏此乎有映留色爾染衣爾衾爾種々物爾作里普久廣久用可久專時乃好人乃求爾滿氏其世乃狀毛明爾示業奈禮波神代乃昔此業乎開支衣乎毛黑青赤乃色々爾染雅美乎街志神事乃隨爾顯世乃晴事止承傳來氏公爾波司乎立氏其業乎進紅紫乃貴茜纈褐色奈止止無限數知良爾染成志毛果波庶人乃手爾毛移者加良凝思込心彼乎取此爾習花鳥水草乃繪乎毛染顯氏今波外國人毛愛雖乍其譽毛價毛彌益爾貴禮波尙此業乃聞延世爾高加禮止有志者相謀氏此染色乃會社乎結比茲爾事始式乎行止爲氏捧物奠氏奉言祝留狀乎平介久安介久聞食氏自今後波此會社乃無動事久遠久悠久榮行牟事波乾場乃綱乃自長

毛長久其聞延乃高良牟事波染色乃自映毛灼久年々爾收留利益無限志氏萬代爾立榮可久守惠美幸給止恐美恐美毛白須

冶金會社開始

此は、古來金工を業とする者ありしが、開明の機運に促されて、會社を結ぶ必要を感じ、其の開始式を擧ぐるに當り、該業の發達と、利益の甚大ならしむ事とを冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

- 世爾欠間敷支物乃世に欠いては
- 世爾無氏波得有奴者乃世に無くては
- 金工乃製留物保止貴波金工のつくは
- 遠津神代爾遠つ神代に
- 神代乃古閉神代のい
- 鏡爾太刀爾矛爾鐸爾鏡に太刀に
- 多奈留賀中爾毛多き中にも
- 數有賀中爾毛かすく有るが中にも
- 又無支事奈留乎又となきこと
- 此業乎開禮志賀故爾此の業をひら
- 此業乎始給志賀故爾此の業を始
- 鐵斧針雜刀乎始鐵の斧、針、雜刀を始めて

- 鏡太刀矛鏃鐸鏡太刀、鏃、鐸、矢の根、鈴
- 敏鎌忌鋤神鉏爾至麻氏敏鎌、忌鋤、神鉏、爾、至、麻、氏、鉏に至るまで
- 皆此技術以氏作出此の技術を以て作り出して
- 今乃現爾傳給志與里今の現在に傳へ給ひしより
- 又他國乃者乎毛用氏又他國の者を用ひて
- 或波彫奈志或波刻氏或は彫りしあ、或は刻みて
- 御殿乃饒里殿内乃裝比御殿内の饒里殿内の裝ひ
- 左右乃御物何爾吳乃器左右の御物何れも
- 世乃望人乃求爾應氏世の望み人の求めに叶はせて
- 其爲乃限乎盡志其の爲すべくし、限りをなすべくし
- 内外乃國爾毛廣久弘里内外の國にも、廣く弘まらば
- 年々乃利益毛許多奈禮波年々の利益も許す多し、奈禮波
- 此度有志者相謀氏此の度有志者の相謀りて
- 或波斧針雜刀乎始氏或は斧、針、雜刀を始めて
- 神鉏忌鋤忌鎌爾至麻氏神鉏、忌鋤、忌鎌、爾、至、麻、氏、鉏に至るまで
- 遠久天下爾遺給志與里遠く天下に遺給ひしより
- 倭鍛冶乃名世爾傳里倭鍛冶の名の世に傳はり
- 果波金銀銅乎毛冶比果ては金、銀、銅、乎、毛、冶、比、銅をも鍊ひ
- 此乎彫里此乎鏤米此れを彫りし、此れを鏤め
- 御舍殿御門御垣乃飾御舍殿、御門、御垣の飾
- 殿内御座諸乃裝比殿内、御座、諸の裝ひ
- 人乃望世乃求爾從氏人の望み世の求めに從ひて
- 其技乃極乎致志其の技術の極みな致し
- 顯世爾無限久廣麻里顯世に限りなく廣く麻里
- 每日爾收留利益多奈禮波毎日にも收むる利益も多し、奈禮波
- 此冶金乃會社乎結比此の冶金の會社を結び

作例

- 茲爾事始式乎行止爲氏茲に開會式を行はせしむ
- 平介久安介久聞食氏平介、久安、介久、聞食、氏、解上
- 此會社乃愈榮氏此の會社の愈々榮えて
- 鍛出須物乃自數毛多爾鍛つくり出す物の數より多く
- 鏤作留品乃自光毛麗久鏤はめ作る品の光よりうるは
- 茂榮爾榮行可久茂榮、爾、榮、行、可、久、解上
- 奉言祝留狀乎奉言、祝留、狀、乎、解上
- 自今後波自、今後、波、解上
- 其利益乃多奈留事其の利益の多し、奈留、事、波、其の利益の多し
- 其譽乃世爾聞延牟事其の譽の世に、聞延、牟、事、波、其の譽の世に
- 遠久悠久萬代爾遠く、悠久、萬代、爾、解上

冶金乃業乎守給布神乃御前爾白左久世爾欠間敷支物乃多奈留賀中
 爾毛金工乃製留物保止貴波又無支事奈留乎以氏遠津神代爾此業乎
 開禮志賀故爾鏡爾太刀爾矛爾鐸爾鏃針雜刀乎始氏敏鎌忌鋤神鉏
 爾至麻氏皆此技術以氏作出遠久天下爾遺給志與里倭鍛冶乃名世
 傳里又他國乃者乎毛用氏果波金銀銅乎毛冶比或波彫奈志或波刻氏

御殿乃飭里殿内乃裝比左右乃御物何爾吳乃器世乃望人乃求爾應氏
 其爲乃限乎盡志内外乃國爾毛廣久弘里年々乃利益毛許多奈禮波此
 度有志者相謀氏此治金乃會社乎結比茲爾事始式乎行止爲氏捧物奠
 氏奉言祝留狀乎平介久安介久聞食氏自今後波此會社乃愈榮氏其利
 益乃多奈留事波鍛出須物乃自數毛多爾其譽乃世爾聞延牟事波鏤作
 留品乃自光毛麗久遠久悠久萬代爾茂榮爾榮行可久守惠美幸給止恐
 美恐美毛白須。

建築會社開始

此は、古來建築の業を營む者許多なるも、開明の機運に促されて、會社を結ぶ必
 要を感じ、其の開始式を擧ぐるに當り、該業の發達と、利益の甚大ならしむ事と
 を冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

- 世爾波家居志氏住者止世には家を建てて住むものと
- 世爾住爾波家居須留者止世に住むに家を構ふる者

- 古神等乃其基乎開支古へ神等の其の基を開き
- 千尋栲繩千尋と長き栲の皮にてなへる繩を
- 縱横乃御量爾波縱横は横との御量にば
- 縱横乃御量止爲志縱横の御量と爲し
- 柱波長太久板波廣久厚久柱は長く太く板は廣く厚く
- 御屋根爾波高久千木打上御屋根の千木を高く千木を打上げ
- 御床戶窓御階乃備爾御床、戶、窓、御階の備へ
- 貴支宮造與里賤夫賀住貴支宮造より賤夫が住む
- 草屋柴戶乃末爾至麻氏草屋や柴戶の末に至るまで
- 神代乃狀乎承來志乎神代の狀を承け來りしを
- 赤久白久塗毛志鏤毛志赤く白く塗し鏤はめし
- 青蕤乎葺支鴉尾乎立青色の葺も葺き鴉尾の形を屋根に立て
- 其手振乎一層改其の手振を一層改めて
- 天津神乃其事乎始天津神の其事を始り
- 百八十結比結氏數多く結び結比
- 百八十結爾結志數多く結び結志
- 千尋栲繩乎以氏此乎爲て之れをなす
- 柱毛板毛或波太久厚久柱は板は厚くは太く厚く
- 御屋根乃千木高久打上御屋根の千木を高く千木を打上げ
- 御殿御室正倉乃差米御殿、御室、正倉の差別
- 上波宮造與里下波賤賀住上は宮殿より下は賤が住む
- 小屋乃醜屋乃末爾至麻氏小き屋の末に至るまで
- 果波唐國振乎毛用坐氏果ては唐國の振をも用ひ坐して
- 礎臺乃築支巖然久礎臺の築に巖然と久
- 彼是乃技乎思凝氏彼は是れは技を思ひ凝らしては
- 寢殿造止志寢殿造り止し

- 對屋渡殿檜皮乎葺支對屋、渡殿、檜皮を葺き
- 御門築地乃構閉麗久御門、築地の構、麗久へうるはしく
- 爲乃限乎盡爾なしの限り、なすに
- 今波外國乃技毛加里今は外國の技も加はり
- 其廣己止古乃八尋殿爾越其の廣きこ殿と古の八尋殿に越え
- 偉志久奇支建築乎大きくすぐれし建築を
- 古様毛造里今形毛廣牟止古風の建築も廣めんと
- 茲爾事始式乎行止爲△茲に開會式を舉行するとして
- 平介久安介久聞食氏△解上に
- 三枝奈須殿造乃自榮毛三枝なす殿榮造の榮え
- 聳雲建築乃自棟毛高久雲に聳ゆる建築の棟よりも高く
- 令立榮給止△解上に
- 高欄乎廻志高欄を取りめぐらし
- 庶人乃家迄毛庶民の家迄りまで
- 開行世乃惠爾逢開け行く世の惠みに逢ひて
- 燒赤土氏壘美磨石氏重赤土を燒きてた壘、み石を磨きて
- 其高己止梯立乃夫爾毛可及其の高きと天の梯立の夫れにも及ぶよう
- 仰支見爾至賀仰き見るに至るが故に
- 此建築乃會社乎此の建築會社を結び
- 奉言祝留狀乎△解上に
- 自今後乃此會社乃榮波今より後の此の會社の榮えは
- 其譽乃高良牟事波其の譽の高かむことば
- 彌遠爾萬代爾△解上に

作例

建築乃業乎守給布神乃御前爾白左久世爾波家居志氏住者止古神等
 乃其基乎開支千尋栲繩百八十結比結氏縱橫乃御量止爲志柱波長太
 久板波廣厚久御屋根爾波高久千木打上御床戸窓御階乃備閉御殿御
 室正倉乃差米貴支宮造與里賤夫賀住草屋柴乃戸乃末爾至麻氏神代
 乃狀乎承來乎果波唐國振乎毛用坐氏赤久白久塗毛志鏤毛志礎臺乃
 築支嚴然久青藁乎葺鴉尾乎立彼是乃技乎思凝氏波其手振乎一層改
 氏寢殿造止志對屋渡殿檜皮乎葺支高欄乎廻志御門築地乃構閉麗久
 庶人乃家迄毛爲乃限乎盡爾開行世乃惠爾逢氏今波外國乃技毛加里
 燒赤土氏壘美磨石氏重其廣己止古乃八尋殿爾越其高己止梯立乃夫
 爾毛可及偉久奇支建築乎仰支見爾至賀故爾古様毛造里今形毛廣牟
 止此建築乃會社乎結比茲爾事始式乎行止爲氏捧物奠氏奉言祝留狀乎

平介久安介久聞食氏自今後乃此會社乃榮波三枝奈須殿造乃自榮毛
榮其譽乃高良牟事波聳雲建築乃自棟毛高久彌遠爾萬代爾令立榮給
止恐美恐美毛白須。

演劇開始

此は、古の俳優に出てて、種々に變遷し、以つて今の演劇に至り、世の娛樂物の
一には過ぎざるも、其の忠孝倫理の事に取りて、社會の感を深むるの功大なるを
以つて、此れが開始を行ふに際し、演者たる者の嚴正にして、益々世上に歡迎せ
られ、其の隆盛を極めむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述べし。

- 沈憂牟人乃心乎慰米憂に沈む人の心を慰む米をなぐさめ
- 厭事有留身乎慰米厭ふ事あり留る身あり慰む米をなぐさめ
- 亂志思毛反正須者止亂れし思ひも正しきに反す者止し
- 廣久世爾持唯留々此技波廣く世に持たるる技は
- 立舞布手振爾嘆乎忘禮立舞ふ手振に禮を忘る
- 絲竹乃音爾思乎晴良志絲竹の音に思ひ晴る良志
- 亂志心毛直加良令留者止亂れし心も直に加ふ良令留る者止
- 昔與里廣麻里來志此技波昔より廣く麻里來る志此の技は

- 種々爾別禮繼々爾變氏種々に別れ禮を繼げ々々變る氏
- 今乃現爾如此傳禮止毛今の現世にかよふ傳禮止毛
- 古天岩戸乃前爾氏古へ天の岩戸の前にて
- 神態爾出多留者奈禮波神わざに出た留る者なれば
- 此乎行身乃俳優人波此れを行ふ身俳優人は
- 志正久行比固良加爾志正しく品行固く
- 作設志作事爾波有止毛作り設けし作り有る毛
- 其君乎重志父母乎尊比その君を重んじ父母を尊び
- 我賀妻子乎痛波里我が妻子を痛はり
- 朋輩爾誠乎盡志朋輩に誠を盡し
- 遂爾波衰閉亡行支遂には衰へ閉りて亡び行き
- 或波人乎陷氏身乎立留毛あるは人な落し入る毛
- 果波榮留善惡乃理乎果は榮え善惡の理を
- 繼々爾改里種々爾別氏種々に改り種々に別れて
- 今乃世爾傳波里來禮止毛今の世に傳る波里來る禮止毛
- 天鈿女命乃事始給志天鈿女命の事始め給ひし
- 此乎勤行布俳優人波此れを勤め行ふ俳優人は
- 直久正久品行乎慎美直く正しく品行を慎み
- 有經留世乃狀態乎移氏有る世の狀態をうつして
- 其尊君重親志その君を尊び親を重んじ
- 己賀妻子爾心引禮己が妻子を心引禮
- 親友爾道乎立親友に道を立て
- 或波世爾傲里人乎虐志毛あるは世に傲り人を虐げし毛
- 或波憂米爾苦氏有志毛あるは憂き米に苦しむる氏有志毛
- 或波辛米爾惱氏有志毛あるは辛き米に悩むる氏有志毛
- 心慰爾見聞須留人乃心慰めに見たり人乃

- 自然其事乎悟里感氏自然に其事を悟り感して
- 世爾手近奈留世に手近に留る
- 此乎行布人々毛其心志氏此れを行ふ人々も其の心志
- 來觀者每日爾繁久來り觀る者毎日繁久に來り觀る
- 利益乃數毛甚多爾志利益の數毛甚多に爾志
- 茂榮爾榮行可久茂榮も爾榮も行可久に
- 人多留道乎守行牟人多く留道乎守行牟
- 能支教事奈留乎以能く支教事奈留乎以
- 萬人毛悅比喜美萬人も悦比喜美
- 日爾異爾收得牟日爾異爾收得牟
- 爲志行牟日內乃限波爲志行牟日內乃限波

作例

演劇乃事乎守給布神乃御前爾白左久沈憂牟人乃心乎慰米立舞布手
 振爾嘆乎忘禮亂志思毛反正須者止廣久世爾持離留々此技波種々爾
 別禮繼々爾變氏今乃現爾如此傳禮止毛古天岩戸乃前爾氏天鈿女命
 乃事始給志神態爾出多留者奈禮波此乎勤行布俳優人波直久正久品
 行乎慎氏有經留世乃狀態乎移氏作設志作事爾波有止毛其尊君重親

志己賀妻子爾心引禮親友爾道乎立或波世爾傲里人乎虐志毛遂爾波
 衰閉亡行支或波憂米爾苦氏有志毛果波榮留善惡乃理乎心慰爾見聞
 須留人乃自然其事乎悟里感氏人多留道乎守行牟世乃手近奈留能支
 教事奈留乎以氏此乎行布人々毛其心志氏萬人毛悅比喜美來觀者每
 日爾繁久日爾異爾收得牟利益乃數毛甚多志氏爲志行牟日內乃限波
 茂榮爾榮行可久守惠美幸給止恐美恐美毛白須

戰死者葬祭

此は、世に戦争有るに際し、陸海軍人其の他の戦死者を出す毎に、君國の爲に身を犠牲に供したる功烈を尊び、公衆の厚く此れを葬りて、其の英靈は永く國家の鎮護と爲り、冥助を垂れ給はむ事を冀ふ事なり。依りて其の意を述べし。

- 汝命等波汝命とは死者を呼び掛けて云ふ語なり等
- 汝命等波汝命とは二人以上を併せ祀る時に云ふ語とす
- 畏毛大君乃命乃畏れ多くも大君の命乃
- 隨爾隨爾の命令のまに
- 御軍爾御軍の
- 從比戰闘爾從比戰闘の
- 臨氏臨氏の
- 畏毛天皇乃任乃畏れ多くも天皇の任乃
- 隨爾隨爾の申付のまに
- 御軍爾御軍の
- 從比戰闘爾從比戰闘の
- 臨氏臨氏の

○其皇軍爾出立その御軍に出でたり

○敵乃右備乃軍爾當里敵の右軍に當り

○山隈乃要害乃處乎奪比山隈の要害の處を奪ひ

○熱奈須夏乃暑爾戰比熱奈須夏の暑に戦ひ

○連日久爭志寒乎破里連日争ひ戦ひ破る

○霜氷留夜乃寒爾守里霜の氷を留る夜に守り

○痛手乎負止毛惱留乎打忘打忘れし苦しき手を負し毛を惱め留るを打ち忘る

○夜晝乃戰爾毛勞乎忘禮夜晝の戦に毛を勞め忘る禮

○闇爾紛岳襲來乎打破里闇に紛れ岳を襲來するを打破る

○又海軍乃衆人爾在岳波又海軍の衆人在り岳波に在りては

○大海原乃狹霧爾惱美大海中の霧に惱み

○浪立留八重乃鹽路爾浪を立留る八重の鹽路に

○霧罩留海原乃浪乎分霧の罩を留る海原の浪を分け

○寄來留艦乎打破里近より來る敵艦を打ち破る

○戰每爾勇志久戦ふ毎に勇ましく

○無例支戰乎為志例なき戦を爲し

○爲君爲國爾盡乍有志君と國とに盡しつゝ有志

○此人々波諸共爾此の人々は諸共に

○遂乃勝乎我國爾取牟遂に我が國を勝つに取む

○事乎中途爾途途中に

○最毛悔久口惜支限止最も悔しく口惜しき支限止

○今日此處爾如例今日此の處に例の如く

○親族家族毛打集親族家族も打ち集りて

○其狀乎平介久安介久聞食其の狀を平介久安介久に聞かして

○君止國止乃護神止君と國とを護り神を止む

○彌遠長爾遠く長きに

○敵軍乃一手乎引受介敵軍の一手を引受け

○彼守禮留要害乃處乎破里彼の守れる處を破る

○彌固久構志寒壘乎屠里彌固く久く構へ志寒の壘を屠り

○凍行久冬乃寒爾守里凍り行く冬の寒に守り

○土燒留日乃暑爾戰比土を燒く日に暑に戦ひ

○糲盡止毛飢支乎不顧糲を盡し毛を飢え支し乎顧みず

○矢玉乎盡志岳波劔乎振比矢玉を盡し志岳波劔を振る

○敵等乃引退乎追擊知敵の退却し追撃を知る

○世爾稀奈留戰功乎立給比世に稀なる戦功を立て給ひ

○敵艦乃所在索止敵艦の所在を索し止む

○彼禮乃艦隊乃監視乎爲止彼の禮の艦隊を監視する爲に止む

○嵐乎凌支嵐をしのぎ

○雨風進布瀛中乎行巡里雨風すすぶ瀛中を巡行し

○遁出留艦乎打沈米遁れ出る敵艦を打ち沈め

○世爾秀多留功乎立世に秀たる功を立て

○稀奈留功乎世爾顯稀なる功を世に顯して

○君止國止爾盡身乍有志君と國とに盡しつゝ有志

○最後乃勝乎我手爾取牟我が手に取らむ

○悦乎毛不見志悦しき毛を見ず

○戰死乎遂介坐志戦死を遂に坐し

○天下乃人々諸嘆支悲天下の人々諸嘆支悲

○御靈等乃御靈等の

○御葬乃式奉仕賀故爾御葬の式を奉仕するが故に

○自今後波今より後

○幽冥遙爾護居坐幽冥に居坐して

○其祭乎享給止其の祭を享け給へ

作例

何々乃御靈等乃御前爾種々乃物乎捧奉氏齋主某慎氏告奉良久汝命
 等波畏毛天皇乃任乃隨爾御軍爾從比戰鬪爾臨氏波敵軍乃一手乎引
 受介彼乃守禮留要害乃處乎破里彌固構志寒壘乎屠里熱奈須夏乃暑
 爾戰比凍行久冬乃寒爾守里繡盡止毛飢志支乎不顧痛手乎負止毛惱
 留乎打忘氏敵等乃引退乎追擊知闇爾紛氏襲來乎打破里世爾稀奈留
 戰功乎立給比又海軍乃衆人爾在氏波敵艦乃所在索止大海原乃狹霧
 爾惱美彼禮乃艦隊乃監視乎爲止浪立留八重乃鹽爾嵐乎凌支寄來留
 艦乎打破里遁出留艦乎打沈米戰每爾勇志久世爾秀多留功乎立氏爲
 君爲國爾盡乍有志爾此人々波諸共爾最後乃勝乎我手爾取牟悅乎毛
 不見志氏事乎中途爾戰死乎遂介坐志波最毛悔久口惜支限止天下乃
 人々諸嘆支悲氏今日此處爾如例御靈等乃親族家族打集氏御葬乃式

奉仕賀故爾其狀乎平介久安介久聞食氏自今後波君止國止乃護神止
 幽冥遙爾護居坐氏彌遠長爾其祭乎享給止白須

軍人靈祭

此は、世に戦死を遂られし遺勳を尊ひ、世人及び遺族等にて、此の靈祭を執行す
 るに際し、其の英靈の明らかに祭祀を享て、永く國家の盛運と、子孫の繁榮を守
 られむ事とを冀ふ事なり。依りて其の意を述べし。

- 汝命等乃現世乎去志與里汝命等の此の現世を去
- 汝命乃無數爾自入汝命の無きかすに入しより
- 早毛幾年止云爾成奴禮波早くも幾年止云ふに成
- 何時志加幾日止云爾成奴禮波何時しか幾日と云ふに成
- 親族家族乎始米親族家族を始しめ
- 此里人諸乎始米此の里人諸を始しめ
- 同僚親友等事謀氏同僚又は親友等事ばかりて
- 有志者思立氏有志のもの思ひ立ちて
- 其靈祭乎行比奉止爲氏其の靈祭を行行比奉るを爲て
- 御祭奉仕留由乎御祭を奉仕留する由を
- 其由乎聞食氏其の由を聞食氏とらして
- 官爾毛事知里坐氏官爾にも事を知り坐して

- 茲爾備物乎被奉志波茲に供物を奉られしは
- 世爾立志御功乎世に立ちし功を
- 彌遠爾尊禮志爾依事爾氏遠に尊れしに依る事なれば
- 此譽波嘗氏汝命等乃此の譽は嘗て汝の命等
- 枕世志自山毛高久枕せし山より高久
- 枕世志自岩根毛高久枕せし岩根より高久
- 界異奈留冲乃浪間爾沖の浪間に
- 他國乃洋中爾他國の洋中に
- 其乃草生屍乎曝禮志其の草生す屍を曝し禮をなされし
- 高功波現世爾耀行氏高き功は現世に耀き行きて
- 仰奴人無尊奴者無介禮波仰ぬ人なく尊ぬ者なく介禮をなされし
- 此大御國乃鎮止爲氏此の大御國の鎮止となりて
- 遠長爾立榮乍遠く長く立榮えつ
- 畏毛此幣帛乎賜志波畏れ多くも此の幣帛を賜はりしは
- 世爾遺禮志其功乎世に遺されし其の功を
- 深久賞給布事奈禮波深く賞て給ふ事なれば
- 他國乃高岑爾死氏他國の高岑に死して
- 戰乃丘爾死氏戰の丘に死して
- 靈等諸乃靈等諸乃
- 屍沈志自海毛廣久屍沈めし海より廣久
- 屍沈志自浪毛清久屍沈めし浪より清久
- 彼乃水漬屍止消良禮志彼の水漬屍を止消えられし禮を
- 大功波萬代爾耀行氏大功は萬代に耀き行きて
- 今毛往前毛天皇乃御護止爲氏現在も將來も天皇陛下の御護りと爲り
- 子孫乃末毛子孫の末毛
- 如此麗久盛大爾如此く麗しく盛大に

○空津御魂毛天翔里來氏上天の御魂も天翔り來りて

作例

○御靈祭奉仕留狀乎御靈祭り仕留す狀を
 ○嘉久嬉志久心足比爾享給止嘉しく嬉しく嬉しく満足に享けま
 何々乃御靈等乃御前爾白左久汝命等乃現世乎去志與里早毛幾年止
 云爾成奴禮波親族家族乎始米同僚親友等事謀氏其靈祭乎奉行止爲
 氏海川山野乃種々乃物乎奠氏御祭奉仕留由乎官爾毛事知里坐氏茲
 爾供物乎被奉志波世爾立志御功乎彌遠爾尊禮志爾依事爾氏此譽波嘗
 氏汝命等乃他國乃高岑爾死氏枕世志自山毛高久靈等諸乃界異奈留
 冲乃浪間爾屍沈志自海毛廣久其草生屍乎曝禮志彼乃水漬屍止消良
 禮志高功波現世爾耀行氏仰奴人無尊奴者無介禮波今毛往前毛天皇
 乃御護止爲里此大御國乃鎮止爲氏子孫乃末毛遠長爾立榮乍如此麗
 久盛大爾御靈祭奉仕留狀乎空津御魂毛天翔里來氏嘉久嬉志久心足

比爾享給止恐美恐美毛白須。

祖先祭

此は、世に毎歳各自其の祖先の忌辰に際し、靈祭を行ひて、厚く追遠の誠を致すが故に、其の諸靈の明らかに此れを享けて、永く家門の繁榮と、生業の隆昌ならむ事とを冀ふ事なり。依りて其の意を述ぶべし。

- 汝命等乃勞支勤氏汝命等の骨折り勤めて
- 成給比興給志此家業乎成し給ひ興し給ひし此の家業
- 今乃家長乃受傳坐氏今の家長の受傳へ坐して
- 豐爾平爾經世爾無缺事世を経るに平かに缺く
- 食物衣物住家乃總與里衣食住の事の總てより
- 家内諸乃者乎養行久爾家内の諸人を養ひ行くに
- 足波奴物無久及波奴事無久足らぬ物なく及ばぬ事なく
- 汝命等乃營給比興給氏汝命等の營み給ひ興し給ひて
- 勞支勤志此家乃生業乎骨折り勤めし此の家業
- 今波實子乃受續坐氏今は實子の受續き坐して
- 平爾經世爾足波奴事無久平かに世を経るに不足の事なく
- 住家衣物食物乃事與里住家又は衣食の事より
- 親族家族乃總乎養爾親族家族の總てを養ふに
- 缺留事無久不及物無久缺る事なく及ばぬ物なく

- 安久樂久有經者波安く樂しく世に經る者は
- 專此乎授給比與給志專此れを授け與へ給ひし
- 祖等乃恩賴爾依賀上爾祖等の恩賴に依るが上に
- 日爾異爾立榮氏日々に榮えて
- 朝爾夕爾立榮來氏朝に夕に立榮え來て
- 無怠事奉仕止爲氏怠ることなくお仕へ申すと爲て
- 親久明爾看行乍親しく明に看られながら
- 自今將來解上に
- 眷業子孫乃末爾至麻氏眷族子孫の末に至るまで
- 惡事異行不令爲惡しき事異しき行など爲させず
- 彌々益々生業乎益々益々生業を
- 長久傳氏家名乎長く傳へて家名を
- 家門毛高久立榮氏家門も高く立榮えて
- 安久豐爾住行者波安く豐に世に住み行く者は
- 全此乎讓給比令繼給志全く此れを讓り繼がせ給ひし
- 此靈等乃惠爾依賀上爾此の靈等の惠みに依るが上に
- 每年乃例乃靈祭毛年の例の靈祭も
- 亂留事無久奉仕乎亂る事なくお仕へ申すと以て
- 嘉久嬉久看行乍喜むが如く嬉しく看られながら
- 平介久安介久聞食氏解上に
- 家爾毛身爾毛諸乃禍事無久家にも身にも諸の禍事なく
- 惡道爾不迷異行不令有惡しき道に迷はざらせず
- 治禮留大御代乃惠止治りたる大御代の惠止
- 其繼行牟家名乎其の繼行かむ家名を
- 常磐爾堅磐爾壽長久常に磐らぬ磐らぬ壽の長く
- 祖名灼久世爾可耀久祖名を世に灼く耀すよう

作例

此家乃祖先乃御靈乃御前爾白左久汝命等乃勞支勤氏成給比興給志
此家業乎今乃家長乃受傳坐氏豐爾平爾經世爾無缺事食物衣物住家
乃總與里家内諸乃者乎養行久爾足波奴物無久及波奴事無久安久樂
久有經者波專此乎授給比與給志祖等乃恩賴爾依賀上爾日爾異爾立
榮氏每年乃例乃靈祭毛無怠事奉仕止爲氏奠留種々乃物乎喜久嬉久
看行乍平介久安介久聞食氏自今將來家爾毛身爾毛諸乃禍事無久眷
族子孫乃未爾至麻氏惡道爾不迷異行不令有治禮留大御代乃惠爾彌
々益々生業乎勵氏其繼行牟家名乎毛不落常磐爾堅磐爾命長久家門
毛高久立榮氏祖名灼久世爾可耀久守惠美幸給止恐美恐美毛白須

改葬式

此は、世に其の家にて行ひ來し葬儀は、異域傳來の宗教の儀式なるに依り、我が
皇國の神代以來の國式に改め、將來の靈祭共に、同式を以つて奉仕することを告
祭する事なり。依りて其の意を述べし。

- 人乃世爾生出波人間の世の中に生れ出で
- 神乃惠止御祭志氏奉祝里神のお慈と祝ひ申して
- 其幽界爾歸入氏波其の幽冥に歸り入りては
- 其身死志爾逢氏波其の身の死亡に逢ひては
- 遠津御代與里奉仕來志遠津御代より御仕へ奉り來し
- 惟神乃大道奈留爾惟神の大道路なるに
- 中津御代與里外國振以氏中津御代より外國風を
- 此爾代氏行奉里此れに代へて行ひ奉り
- 靈祭乃事麻氏毛然成行氏靈祭の事ま行きて
- 天下皆怪事無爾至志波天下みな怪む事なきに至りしは
- 人世爾生留事有禮波人間の現世に生れ有れば
- 神乎祭氏此乎言壽神を祭りて此れを言はば
- 祭事乎以又此乎奉葬會祭の行事を以つて又此れを葬り奉るなり
- 祭乃儀以氏又奉葬會祭の儀式を以つて又葬り奉るなり
- 自古人草乃奉仕來志古より人民の仕へ奉り來し
- 神代隨乃大道奈留爾神代ながらの大道なるに
- 後波他國乃手振乎以氏後ば他國の手振を以つて
- 其事乎行奉里其の事を以つて行ひ奉り
- 靈祭乃式麻氏毛變行氏靈祭の式まで行きて
- 顯世舉氏怪事無爾至志波此の世舉りて怪む事の無に至りしは

- 古乃道爾違多留古への道に違ひたる
- 甚毛有麻志支事奈里止甚も有るまじき事なりと
- 此家長乃深久悲美畏氏此の家長の深く悲しむ畏れ
- 自今後波萬代爾今より後は萬代の後に
- 自今後波遠長久今より後は遠く長く
- 神代隨乃皇國振爾改氏神代よりの皇國ふりに改めて
- 正久奉仕止爲氏正しくお仕へ申すと爲て
- 其由乎奉告留狀乎其の由を奉告する狀を
- 子孫乃八十連聯爾子孫の八十つに連なり
- 春秋乃季乎不違每年爾春秋の二季を違へず毎年
- 時物爾氏調志御饌奠里時物にて調へし御饌を奠り
- 折氏捧留紅葉乃赤心爾折て捧ぐる紅葉の赤き心に
- 喜久嬉志久看行乍喜しく嬉しく看行乍御覽じながら
- 皇國乃道爾背多留皇國の道に背きたる
- 甚毛畏支事乃極止甚も畏れ多き事極止
- 此家長乃深久慨美悲氏此の家長の深く嘆き悲しみて
- 其葬乃式毛靈祭乃事毛其の葬の式も靈祭の事も
- 其葬事靈祭乃式乃總乎其の葬事靈祭の式も總て
- 我惟神奈留古道爾改氏我が惟神なる古道に改めて
- 麗久奉仕止爲氏麗しくお仕へ申すと爲て
- 平介久安介久聞食氏解上にあたり
- 家門高久令立榮給氏家門高く立ち榮えしめ給ひて
- 妻子等乃調志味物備閉妻子等の調へし味物の物を備へし
- 獻留花乃香乃馨志久獻る花の香の馨志久
- 御靈祭奉仕留狀乎御靈祭を奉仕する狀を
- 彌遠長爾其祭乎享給止いよゝ遠く長給へし其の祭を享け

作例

此乃何々乃御靈乃御前爾此の何々の御靈の御前白左久人乃世爾白左久人の世生出氏波生出の氏波神乃惠止御祭志神の恵止の御祭志
 氏奉祝里其幽冥爾歸入氏波氏奉祝里其幽冥の爾歸入の氏波祭事乎以又此乎葬奉會祭事乎以又此乎葬奉會遠津御代與里奉遠津御代與里奉
 仕來志惟神乃大道奈留然乎中津御代與里外國振以氏此爾代氏行奉仕來志惟神の大道奈留然乎中津御代與里外國振以の氏此爾代の氏行奉
 里靈祭乃事麻氏毛然成行氏天下皆怪事無爾至志波古道爾違多留里靈祭の事麻氏の毛然成行の氏天下皆怪事無の爾至志波の古道爾違多留甚
 毛有麻志支事奈里止此家長乃深久悲美畏氏自今後波萬代爾其葬乃毛有麻志支事奈里止此家長の深久悲美畏氏の自今後波の萬代爾其葬の
 式毛靈祭乃事毛神代隨乃皇國振爾改氏正久奉仕止爲氏種々乃物奠式毛靈祭の事毛神代隨の皇國振の爾改の氏正久奉仕止爲の氏種々の物奠
 氏其由乎奉告留狀乎平介久安介久聞食氏子孫乃八十連聯爾家門高氏其由乎奉告留狀乎平介久安介久聞食の氏子孫の八十連聯の爾家門高
 久令立榮給氏春秋乃季乎不違每年爾妻子等乃調志味物備閉獻留花久令立榮給の氏春秋の季乎不違毎年爾妻子等の調志味物の備閉の獻留花
 乃香乃馨志久御靈祭奉仕留狀乎嘉久嬉志久看行乍彌遠長爾其祭乎乃香の馨志久御靈祭奉仕留狀乎嘉久嬉志久看行乍彌遠長爾其祭乎
 享給止恐美恐美毛白須

移 靈 式

此は、世に死亡者の有りて、埋葬の後に家族の其の靈を祭らむが爲に、此れが靈位を作り其の御靈を移して、永く此を奉祀する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

- 身乃惱爾打伏氏與里身の悩みに打ち伏す
- 深久醫師乃手乎煩志深く醫師の手を煩はし
- 速爾其病乃癒奈牟事乎冀速に其の病を癒す事なむ事乎冀
- 幾人乃醫師乎煩志幾人の醫師を煩はし
- 夜中曉時止無別事夜中曉時を止む別事なく
- 焦思志盡身多留甲斐毛無焦る思志盡し身多留甲斐毛無
- 波加無毛此世乎去氏波加無毛此世乎去氏
- 亡人乃數爾被入志乎以氏亡人乃數爾被入志乎以氏
- 親族家族乃嘆波親族家族乃嘆波
- 去項與里病乃床爾伏氏與里去項與里病乃床爾伏氏與里
- 其病乃疾久怠牟事乎冀其病乃疾久怠牟事乎冀
- 此禮爾藥志是乎治療米此禮爾藥志是乎治療米
- 此禮爾治療此爾藥志此禮爾治療此爾藥志
- 夜晝乃別乎不言夜晝乃別乎不言
- 碎心支凝思多留驗効毛無碎心支凝思多留驗効毛無
- 慨久毛兩親乎置氏慨久毛兩親乎置氏
- 世爾亡人止被成志乎以氏世爾亡人止被成志乎以氏
- 言牟方毛無事在止毛言牟方毛無事在止毛

- 如此氏耳可有事在良爾波如此氏耳可有事在良爾波
- 該亡靈乎祭氏太爾該亡靈乎祭氏太爾
- 例乃隨爾事取設氏例乃隨爾事取設氏
- 習慣乃事乃隨爾設調氏習慣乃事乃隨爾設調氏
- 汝乃御靈明爾汝乃御靈明爾
- 永久其祭乎享給止永久其祭乎享給止
- 自今後波自今後波
- 其乃思乃程乎致麻志止其乃思乃程乎致麻志止
- 此式乎行狀乎此式乎行狀乎
- 平介久安介久聞食氏平介久安介久聞食氏
- 此靈牌爾移良志坐氏此靈牌爾移良志坐氏

作 例

此乃何乃某伊。身乃惱爾打伏氏與里。深久醫師乃手乎煩志。速爾其病乃癒。奈牟事乎冀。此禮爾藥志是乎治療米。夜中曉時止。別事無久。焦思志盡。身多留甲斐毛無。波加無毛。此世乎去氏。亡人乃數爾被入志乎以氏。親族家族乃嘆波。言牟方毛無事在止毛。如此氏耳可有事在良爾波。自今後波。該亡靈乎祭氏太爾。其乃思乃程乎致麻志止。例乃隨爾事取設氏。此式乎

行狀乎。平介久安介久聞食氏。汝乃御靈明爾。此靈牌爾移良志坐氏永久其祭乎享給止白須。

誄詞

此は、世に死亡者の有りて、此れが埋葬を行ふに當り、其の子孫・卑族・朋友・舊故の者別れに臨みて、悲悼の情を據べ、室内若くは式場の柩前に就きて、此れを誄する事なり。依りて其の意を述ぶべし。

- 阿奈悼志支哉毛悲志支哉毛あいな悼しししきあいかまあ悲しいあいかまあ
- 安那慕志支哉毛戀志支哉毛あなほ慕しししきあいかまあ戀しいあいかまあ
- 命波夙爾劣支已乎志氏いのちなほふくにれつしあいかまあ命は前に劣れ
- 其後乎令繼給比そのあひつらつがしつたまひがせ給ひ
- 常爾身波世離氏有志毛つねにみはなれてありしも常に身は世を還
- 年月久爾勤志家乃事止としづひにいとまじいへことと年月久しく勤めし家の事と
- 其營牟生業乃上爾そのいん牟なりはのうへに常に營む生業の上に
- 思餘行惑布有事爾逢氏波おもひあまることなほありしに思ひ餘り行
- 碎心支凝思志氏教導給比こころをくだしあひもふしししてしんを凝して教へ
- 專家乃榮乎助乍坐志爾せんかひのさかえなりたすけつりあはし
- 此程病乃床爾伏氏與里このほどまひのこゝろに伏してより
- 施世留其藥石乃驗毛無久ほどこせるそのくすりいしをのたまひも
- 此顯世乎置氏死去坐志波このあきせにをきてしして死に
- 最毛慨久口惜支限爾奈毛いともあはれひくはなげしき限に
- 哀禮自今波誰人加あはれいまよりたれひとあはれ
- 自明日波何禮乃者加あしたのあしたのあはれ
- 思煩比考暮氏波おもひわづらひをかんがへる
- 其袖搾留涙波限無禮止毛そのそでをしぼりてなみだはかぎ
- 此處爾與都城作氏このところにて

- 我何々乃命與われなになにいのちと
- 我友何々乃君與われともなになにきみと
- 君波夙爾我拙乎不捨志氏きみはなほにれつしあいかまあ君は夙に拙
- 深久朋友乃情乎盡左ふかひともともなほのこころをたぎ
- 身波常爾處離氏住志毛みはつねにたもころはなれてあはし
- 若與里交來志朋友乃事止わがともとあはれにまじりしともなほの事と
- 世爾立氏行久事乃上爾よにたてしあはれにたて行
- 取惑比決兼留有事爾臨氏波とりあはれにきまめしあはれに
- 心爾毛掛介人爾毛謀氏こころに毛かかひひとに毛はかりて
- 邂逅毛病乃床爾臥氏與里あひまひにまひのこゝろにふし
- 厚久深久助給氏有志爾あつひくふかひくたすけたまひてありしに
- 盡手多留藥石乃効毛無久たぎ手なほあはれいしをのたまひも
- 途爾亡人乃數爾入坐志波みちをたぎるひとのあはれにま
- 誠爾痛志久悲志支極爾奈毛まことあはれにいたしきあはれに
- 我賀不及乎教給牟われあはれにたすけたまひ
- 己賀不足乎助給牟おのれあはれにたすけたまひ
- 唯獨哭會泣留ただひとりあはれに
- 世乃掟止慣志乃任爾よにのたまひしあはれに
- 君賀家乃與津城處爾きみあはれにともなほのあはれ

○送來里奉葬禮波送り來り葬
 ○其見乍樂志老乃面輪毛其の見つゝ樂志
 ○永留爾世爾波不見加成奈牟永久に世に
 ○彼共爾親志慕志乃姿毛彼の共に親みた
 ○悔美惜美痛美悲氏有禮波悔み惜み痛
 ○御空高久天翔里來坐氏上天高く天翔
 ○彌遠爾守幸閉給止解上に

○送至里奉葬禮波送り來り葬
 ○其見乍談志麗乃面輪毛其の見つゝ談笑
 ○彼侍乍安良閉志老乃姿毛彼の侍まつ
 ○再波仰得奴者爾志有留良止再びは仰き見
 ○消果奴御靈波一向消はてぬ靈
 ○眷族乃行末止家乃榮乎家族の行末と

作例

阿奈悼志支哉毛悲支哉毛我何々乃命與命波夙爾劣支己乎志氏其後
 乎令繼給比常爾身波世離氏有志毛年月久爾勤志家乃事止其營牟生
 業乃上爾思餘行惑布事有爾逢氏波碎心支凝思志氏教導給比專家乃
 榮乎助乍坐志爾邂逅毛病乃床爾臥氏與里盡手多留藥石乃効毛無久

此顯世乎置氏死去坐志波甚毛慨久口惜支限爾奈毛哀禮自今波誰人
 加我賀不及乎教給牟自明日波何禮乃者加己加不足乎助給牟止思煩
 比考暮氏波唯獨哭會泣留々其袖捲留淚波限無禮止毛世乃掟止慣乃
 任爾此處爾與都城作氏送來里奉葬禮波其見乍樂志老乃面輪毛永留
 爾世爾波不見加成奈牟彼侍乍安良閉志老乃姿毛再波仰得奴者爾志
 有良牟止悔美惜美痛美悲氏有禮波其乃消果奴御靈波一向爾御空高
 久天翔里來坐氏眷族乃行末止家乃榮乎彌遠爾守幸閉給止白須。

葬祭

此は、世に死亡者の有りて、其の葬儀を執行するに際し、齋主たる者の讀誦する祭文の事なり。依りて其の意を述べし。

○齋主何某慎氏齊主何の某
 ○某伊穩爾聞食世某穩に
 ○今何乃某爾奉告留有事今何の某に告
 ○凡世爾生出留者波凡そ世に生れ

○蕃息氏世爾在留者波蕃息して此の世にあるものは

○其終乎不告留者波其の終を告げぬものは有らぬ

○天神與里其御靈賜里産靈神より其の靈魂を賜はり

○身乎父母與里分禮氏身を父母と分けて禮を分けられたる

○我人共爾如此在者奈留毛我人も人も共如此なるも

○定禮留命止時來禮命を定むる時來れば

○奇比奈留身乃活動失氏奇比奈留身の活動を失はせし

○兩乃耳毛不聞成氏兩の耳も聞えずなりて

○此世乃外爾趣立者爾志氏此の世の外に趣き立つ者にして

○夜晝施志藥石乃効毛夜晝施し藥石の効も

○每日爾盡志醫師乃力毛毎日爾盡志醫師の力も

○悉久無甲斐者止成果氏悉く甲斐なき者止るに成りて

○枕邊爾親久添居志者毛枕邊に親しく添居る者も

○皆其乃終乃無者波みな其の終りの無きものは

○人波父母乃身乎分禮氏人は父母より身を分けたる

○人波天神與里御靈賜里人は産靈神より靈魂を賜はり

○如此波生出來志事奈留毛如此に生れ出で來りし事なるも

○定禮留命止時來禮命を定むる時來れば

○兩乃眼乎閉留止共爾兩の眼も閉り留るに共

○一乃息乃絶止共爾一の息も絶るに共

○顯世乎退里行者爾志氏此の世を退り行く者にして

○夜晝盡多留醫師乃力毛夜晝盡く多留醫師の力も

○不怠施志藥石乃効毛不怠し藥石の効も

○全久甲斐無事止爲氏全く甲斐なき事止るに爲りて

○添居志者皆枕邊爾打伏添居る者皆枕邊に打ち伏し

○人々毛共爾後邊爾來氏人々も共爾後邊に來て

○後邊爾侍志人々毛後邊に侍り人々も

○難堪乃悲爾泣伏乍堪へ難き悲みに泣き伏す

○叫止毛不答喚止毛叫とも喚へず不答喚止毛

○所言便毛無支悼左乎遺志言ひやうし無き悲を留めて

○所爲便氏知良爾惑嘆介止毛爲やうし知らざるに嘆き介し

○如此氏耳可有有限在爾波止如此に斗り有るべき限り有なし

○與都城作氏與都を築く

○阿波禮結其身志物質波あはれ其の身を結びたる物質は

○賜志御靈乃身乎放志毛賜りし御靈の身を放れし

○彌遠爾妙奈留惠乎蒙乍いよ遠く靈妙なる惠を蒙り

○慕奉里戀奉氏慕ひ奉り戀ひ奉りて

○時々乃祭乎時々の祭

○嘉久嬉久享坐止共爾嘉しく嬉しく享坐す共

○慘乃限乎音爾泣乍悲惨の限りを音に出し泣きつ

○喚止毛不答抱止毛喚とも答へず抱止毛

○所言便毛無支悲乎留米氏言ひやうし無き悲を留めて

○所爲便毛知良爾嘆悲米止毛爲やうし知らざるに嘆き悲し

○然志氏耳可有事在爾波止如此にして斗り有る可き事な

○顯世乃掟止習慣乃任爾此世中の掟と習慣とのまに

○今茲爾奉葬禮波今茲に葬り奉れば

○皆原乃物質爾歸果氏みな原の物質に歸り果て

○高久天神乃御許爾到里高く天神の御許に到り

○甚毛樂久平加爾有經牟毛ひどく樂しき平かに有り

○親族家族乃取行布親族家族の取行ふ

○雲上遙爾天翔來氏雲上遙かに天翔り來て

○家乃榮毛彌高爾可榮行家の榮もいよいよ高く榮え行く

○守幸閉給止白須解上にあり

作例

齋王何某慎氏。今何乃某爾奉告留有事。某伊穩爾聞食世。凡世爾生出留者。波皆其終乃無支者。波不有人。波父母乃身乎分禮氏。天神與里其御靈賜里。如此波生出來志事。奈留毛。定禮留時到氏。命盡波。兩乃眼乎閉留止共爾。奇比奈留身乃活動失氏。顯世乎退里行者。爾志氏。夜晝盡多留醫師乃力毛。不怠施志藥石乃効毛。全久甲斐無事止爲氏。添居志者毛皆枕邊爾打伏人々毛共爾。後邊爾來氏。慘乃限乎音爾泣乍喚止毛不答抱止毛不起。所言便毛無支悲乎留米氏。所爲便毛知良爾。嘆支悲米止毛。然志氏耳可有事在。爾波止。顯世乃捉止習慣乃任爾。與都城作氏。今茲爾葬奉禮波。阿波禮結其身志物質波。皆原乃物質爾歸里果氏。賜志御靈乃身乎放志毛。高久天神乃御許爾到里。彌遠爾妙奈留惠乎蒙乍。甚毛樂久平爾有。

經牟毛。慕奉里戀奉氏。親族家族乃取行布時々乃祭乎。雲上遙爾天翔來氏。嘉久嬉久享坐止共爾。家乃榮毛彌高爾可榮行守幸閉給止白須。

靈祭

此は、世に總ての靈祭を營むに當り、時日の遠近に亘るを言はず、祭祀して其の靈を慰むる事なり。依りて其の意を述べし。

- 汝命乃此世乎退氏汝命の此の世を去りて
- 汝命乃顯世乎措氏汝命の現世を措きて
- 早久毛今日何々爾成奴禮波早くも今日は何日又は何年に成れば
- 奉仕留狀乎仕へ申す
- 常爾天神乃愛乃盛爾常に天神のおほめの盛りに
- 樂久平爾居坐止共爾樂しく平かに居坐すと共に
- 子孫乃行末止家榮乎子孫の行末と家の榮えを
- 幽世爾入坐志與里幽冥にいり
- 幽世爾歸里入志與里幽冥に歸り入しより
- 其靈祭行比奉止爲氏其の靈祭を行ひ申すと爲て
- 平介久安介久聞食志首肯比給氏平かに安かに聞ひてうへなひ給ひて
- 高久天坐神乃御惠蒙里多く天に坐す神の御惠を蒙り
- 無量樂乎受氏隱比坐爾毛量り無き樂を受けて隱れ坐にも
- 家止子孫乃行末乃榮乎家と子孫との行末の榮えを

○常磐爾堅磐爾守給解上にあり

○家内穩爾眷族睦志久家内穩にうからやから睦じく

○其生業乃途乎勤勵毎に生業の途を勤み勵みて

○世爾立榮乍世に立ち榮えながら

○遠長爾御祭乎毛可奉仕久遠く長く御祭をも奉仕すべく

○幽冥遙爾幸給止幽冥より遙に幸へ給へと

○御机爾御饌置足志御机に御饌を充分に置きては

○朝夕爾向禮志面影乎俣出朝夕に向はれし面影を思ひ出で

○令坐奉靈牌爾謚號讀坐せ奉る靈牌に有る謚號を讀ては

○稱言須留聲毛淚爾濁稱言する聲も涙に打ち濁りて

○悲乃情波宇須禮毛遺良須悲の情はうすくも成り行かす

○慕布心波不消志毛有慕ふ心は消す有て

○往氏返良奴理乎知里往て返らぬ理を知り

○無夜久無晝久守給夜も晝も守り給ひて

○家内爾禍事無久睦比親家内に睦しき事なく睦び親か

○生業乃事々爾勵務生業の事々に勵み務めて

○無限久立榮行限りなく立ち榮え行きて

○萬世爾御靈祭可奉仕久萬世に御祭の祭を奉仕するよう

○嗜禮志物爾調志御饌奉好まれし物に調へし御饌を奉りては

○在志世乃面影乎俣出在し世の面影を思ひ出で

○靈牌乃文字爾御名讀靈牌の文字に有る御名を讀ては

○仰見留眼毛淚爾閻仰き見る眼も涙に溢さくれて

○來經行日數波積禮止來經行く日數はつもれども

○年月多爾重來奴禮止年月多く重來たれど

○流乃清水汲手爾流の清水を汲む手にも

○平向乃清水掬爾手向の清水を手にすくふに

○往氏跡無支理乎知里往て跡方なき理を知り

○散行事乃定有止波悟禮止散り行く事定めし悟れども

○果波移良布世乃定爾感禮止果は移り行感ずれど

○甲斐無支淚搔拂泣く甲斐のなき涙を拭ひながら

○心足比爾平介久享給止心足らひに平介久に享給へと

○匂留花乎手向久留身爾匂へる花を供へる身にも

○色深支紅葉乎捧留身爾色深き紅葉を捧へる身にも

○難盡乃思爾袖打控里難く盡す思ふ袖を打たぬらし

○執行布今日乃祭乎執行ふ今日の祭を

作例

何某乃御靈乃御前爾白左久汝命乃此世乎退氏幽世爾入坐志與里早

久毛今日何々爾成奴禮波其乃靈祭行比奉止爲氏種々乃物奠氏奉仕

留狀乎平介久安介久聞食志首肯比給氏常爾天神乃愛乃盛爾樂久平

爾居坐止共爾子孫乃行末止家乃榮乎常盤爾堅盤爾守給氏家内穩爾

眷睦族志久其生業乃途乎勤務氏世爾立榮乍遠長爾御祭乎毛可奉仕

久幽冥遙爾幸給止嗜禮志物爾氏調志御饌奉氏波在志世乃面影乎俣

出^で靈牌^{たまご}乃^の文字^{もじ}爾^に御名^{なご}讀^よ氏^て波^は仰見^{あやみ}留^る眼^め毛^も淚^{なみだ}爾^に闇^{くら}禮^れ氏^て來^き經行^{けいぎやう}日^ひ數^{かず}波^は積^つ
 禮^れ止^と毛^も悲^{かな}乃^の情^{なさけ}波^は宇^う須^す禮^れ毛^も遣^や良^ら須^す年^{とし}月^{げつ}多^ま爾^に重^{かさ}來^き奴^{やつ}禮^れ止^と慕^{した}布^ふ心^{こゝろ}波^は不^え消^え
 志^し毛^も有^あ氏^て流^{なが}乃^の清^{きよ}水^{みづ}汲^ひ手^て爾^に毛^も往^か返^へ良^ら奴^{やつ}理^り乎^や知^し里^り句^く留^る花^{はな}乎^や手^て向^む留^る身^み
 爾^に毛^も散^ち行^{ぎやう}事^{こと}乃^の定^{さだ}有^あ止^と波^は悟^{さと}止^と毛^も難^{がた}盡^{ごと}乃^の思^{おも}爾^に袖^{そで}打^う擗^つ甲^か斐^ひ無^な支^し淚^{なみだ}搔^か拂^ふ乍^な
 執^{しやう}行^{ぎやう}布^ふ今^{いま}日^ひ乃^の祭^{まつり}乎^や心^{こゝろ}足^{たり}比^ひ爾^に平^{たい}介^{けい}久^く享^{かう}給^{たま}止^と恐^{おそ}美^み恐^{おそ}美^み毛^も白^{しろ}須^す

冒頭詞

- 此處爾鎮坐須此の處に鎮
- 此處爾齋奉留此の處に御
- 此神床爾令坐奉留此の神床に坐
- 此神奈備爾鎮坐須此の神の森に
- 此處乎領知支坐須此の處を支
- 此南丘乃本爾坐須此の南の丘の

- 此處爾令坐奉留此の處に坐
- 此處爾祝奉留此の處に御
- 此神籬爾招奉留此の御室木
- 此里乃產土止坐須此の里の產土の
- 此東山乃高根爾坐須此の東山の高
- 此裾野原爾宮敷坐須此の裾野の原に宮

- 此大川岸乃側爾坐須此の大川岸の
- 此御苑內爾坐須此の御苑の
- 此坂乃御尾爾坐須此の坂の御尾と
- 此西谷乃奧爾坐須此の西谷の
- 此家乃宅神止坐須此の家の宅
- 此假舍爾令坐奉留此の假舍に坐
- 某村乃何乃處爾鎮坐須某村の某處に
- 東京乃府內乃某町爾坐須東京の市内の
- 此小床乎祓清米假乃御坐止定此の床を祓ひ清めて假の御坐所
- 此處乃荒草刈退介假乃御坐取設此の處の草を刈り拂ひ去り假の御坐所を取
- 此處爾齋竹刺立御注連繩引渡此の處に清淨の竹を刺立て御
- 某乃原乃直中爾神籬立令坐奉留某の野原の直中に御室
- 某國乃何郡何村乃宮地爾宮敷坐須某國の何郡の何村の

- 此眞砂照留浦曲爾坐須此の眞砂の照
- 此御構乃內爾坐須此の御構への
- 此北山乃山口爾坐須此の北山の山の
- 此氏人乃氏神止坐須此の氏人の
- 此假殿爾遷奉留此の假殿に
- 何々乃事乎守給布守何々の事を
- 平安京乃某乃大路爾坐須西京の某の

○某國乃何郡何村乃下津磐根爾宮柱太敷立高天原爾千木高知氏鎮

坐須某國の何郡の何處の社地の地下の磐根まで宮柱を太く著るく擲り立て其所の空の高天原まで千木を高く著るく擲りて鎮りて居ます

○掛卷毛畏支首葉に掛けて申すも畏れ多き ○掛卷毛綾爾畏久同上、唯あやにと云ふ

○掛卷毛畏久言卷毛尊加禮止掛卷も畏きと云ふ所に同じ意の首葉に申すも懸く恐れあれど云ふ語を重ね添へたるなり

○大御名乎白毛畏久白左禮波畏支祭る處の神の御名を白すも畏れ多く白きす有るは尙ほ畏れ多しと句を重ねたるなり

○皇神爾白左久祭る處の皇神に白す ○大神爾奉告良久祭る處の大神に告げ奉るなり大神は稱詞なり

○神等爾白左久二神以上の神の前に白すを尊と云ふなり ○神乃御前爾白左久祭る處の神の御前に白すなり

○皇神乃御前爾白左久祭る處の皇神の御前に白すなり ○御靈乃前爾白左久祭る處の御靈の御前に白すなり

○皇神乃御前爾恐美恐美毛白左久祭る處の皇神の御前に恐れ恐れて白すなり

○皇神等乃御前爾恐美恐美毛白左久二神以上の神の前に恐れ恐れて白すなり

○皇神等乃御前爾慎美敬比恐美恐美毛白左久同上の句中に祭儀の場合に依り慎み敬ひの語を加へて白すなり

○皇神等乃前爾辭竟奉良久皇神等の前に屬しく詞を盡して申し奉るはなり

○皇大神乃大前爾恐美恐美毛稱辭竟奉良久皇大神の大前に恐れ恐れて神靈其の他の贊美の詞を極め盡して申し奉るなり

獻供詞

○奉留幣帛乎進る幣帛を幣帛は神前への備物を云ふ

○奉出須幣帛乎送り出す備物を

○宇豆乃幣帛乎珍らしく殿めしき立派なる備物を

○禮代乃幣帛乎敬意を表する印の備物を

○月次幣帛乎月次の祭事に其る備物を

○祈年大幣帛乎新年祭に獻る備物を

○宇豆乃大幣帛乎宇豆の稱詞に大の稱詞を加へて稱へたる備物なり宇豆は殿めしく珍しき意なり

○御弓御太刀手にとる弓と身に佩く太刀と

○衣笠紫色の絹蓋なり

○明妙生絹にして純白の色にて透明せる織物を云ふ

○幣帛奉留事乎備物を進る事

○幣帛奉進志給事乎備物を送り出す給ふ事を

○大幣帛乎大の詞を冠して備物を稱へたるなり

○品々乃幣帛乎種々に數の多き備物を

○神嘗乃大幣帛乎大神宮の神嘗祭の備物を

○新嘗幣帛乎新嘗祭に獻る備物を

○安幣帛乃足幣帛止祭る神のお心に安く足はしき備物と

○楯戈御馬爾御新御戈及御馬に

○御鞍具神馬の御鞍を捕へてなり

○照妙種々の色を以て織たる織物にて映ある錦などなり

- 和妙 地の柔かく麗しき絹織もの
- 五色物 青黄赤白黒の五色の織もの
- 麻 糸また織物にせぬ其の儘のもの
- 金乃 楠 金色に塗りたる楠
- 見明物止鏡 照して見てあきらむる物として鏡
- 射放物止弓矢 物を射放つものとして弓と矢
- 馳出物止御馬 乗りて馳せ出づる物として御馬
- 奉留御饌乎 進る處の御饌を
- 奉留御酒波 獻る御酒は
- 由貴乃御饌 忌み清まはりて調へし御食
- 朝御饌 朝井に曉昏に奠る御饌
- 御酒御饌乎奉氏 御酒御饌を一勺に述べたる語なり
- 朝御食夕御食乃加牟加比爾 朝夕の御膳の御饌向になり
- 荒妙 地の荒き木綿麻などの織もの
- 木綿 木綿は織物にせぬ原料の儘のもの
- 金能麻笥 金色に塗りたる麻笥
- 金乃 持 金色に塗りたる持
- 翫物止玉 常に翫ものとして玉
- 打斷物止太刀 物を打ち断つものとして太刀
- 白馬白猪白鶏 莫る白馬白猪白鶏此れは祈年の祭のみに進る物なり
- 御饌奉留 御前に御饌を進りて
- 御酒奉留 御前に御酒を獻るを
- 由貴乃御酒 忌み清まはりて調へし御酒
- 夕御饌 夕井に宵昏に奠る御饌
- 大御饌大御饌乎奠良久乎 同上の語に大とて申すなり

- 長御食能遠御食登赤丹穗爾聞食 長く遠く召しあがる御食として召しあがりて赤く麗しき色を穂に現し給ふなり
- 天都御膳乃長御膳乃遠御膳止 長みけの遠みけと云ふ語に稱詞の天都御膳の一勺を置て稱へしなり
- 汁仁毛實仁毛赤丹穗仁所聞食 赤丹の穂に聞食すと云ふ語の上に酒の汁に又飯の實にもと云ふ語を加へしなり
- 切穗乎波千穎八百穎爾 初めて實りし稲穂を千穎八百かひと數多くなり穎は稲穂の儘の物を云ふ
- 和稻荒稻 和は穂けたるを云ひ荒は穎ながらなるを云ふ
- 八百稻千稻 稲を幾千となす數多くなり
- 御酒者囊上高知囊腹滿竝 御酒は其を入れたる囊の上の高く著るく且つ列れたる囊の腹に御酒を滿て幾箇も並べて
- 此乃甜酒乎 此の芳味なる真酒を
- 白酒黒酒 白酒は醗たる儘の白色のもの黒酒は醗灰にて色を黒くせしもの
- 山爾住物者 山間に住むもの
- 毛乃和物 毛の柔かき動物にて鳥類
- 大野原生物者 野原に生ふるものはなり大は廣き意にて添へたる詞
- 甘菜 味ひの甘き菜にて蕪葵の類なり
- 辛菜 味ひの辛き菜にて大根山葵の類なり
- 此乃味酒乎 此の美味なる清酒を
- 事酒和酒咲酒 此の酒を香めば心も和らき又意も樂しくなれば云ふ
- 毛乃荒物 毛の荒ら荒らしき動物にて獸類
- 千稻八千稻 稲を其の儘に幾千となす數多くなり
- 汁爾毛穎爾 毛酒に醗して汁にも稲穂の儘の類にも

○青海原爾住物者海中に住むものはなり膏は海水の青く見ゆるより添へたる飼

○鱒乃廣物鱒則ち魚のひれの廣きものにて大魚なり

○奥津藻葉沖中に生ずる藻にて昆布などの類なり

○廣布昆布など

○海津物海中の物を汎稱して云ふ

○海川山野乃種々乃物海に川に野に山にあり種々のもの

○禮代乃物敬意を表する獻物の品の汎稱なり

○御机据氏饗供等の用に高案を据ゑてなり

○鱒乃狹物魚のひれの狭きものにて小魚なり

○邊津藻菜海邊に生ずる藻にて若布などの類なり

○和布若布など

○貝津物貝類の總てを惣稱して云ふ

○捧物御饗並に獻備等の物の總てを汎稱するなり

○齋机置並氏饗供等の用に精淨の机を置き並へてなり

終 結 詞

○拜奉良久止白須拜み奉ると白すなり。るをらくと延べて云しなり

○乞祈奉良久止白須乞ひ祈り奉るを乞ひ祈り奉る

○此祭乎行奉良久止白須此の祭典を行ひ申すと白すなり

○遙爾拜奉良久止白須遙かに拜み奉るを遙かに拜み奉る

○言壽奉良久止白須言ひ壽を奉るを言ひ奉る

○例神幸仕奉良久止白須例年の通り神幸を仕奉ると白すなり

○彌遠長爾祝鎮米奉良久止白須いや遠く長く祝ひ鎮め申すと白すなり

○此禮代乃種々乃物乎捧氏仕奉良久止白須此の敬意を表する種々の品々を差し上げて仕奉ると白すなり

○參來集留人々諸毛大前爾躡踞氏請禱奉良久止白須參り來り集り留り人々諸毛大前爾躡踞氏請禱奉良久止白須

○朝日能豐逆登爾稱辭竟奉良久止白須朝日の勢ひ登りに差し昇る時期を以つて祭典を奉仕ると白すなり

○聞食止恐美恐美毛白須上件述たる意を聞とりませと心に恐れつゝ白すなり

○今日能祭乎享給止恐美恐美毛白須今日の祭典を享け給へと白すなり

○此御祭乎宇豆奈比坐止恐美恐美毛白須此の祭典を踏なひ坐せと白すなり

○手掌毛摺亮爾打上氏恐美恐美毛白須手の掌の音もあざやかに高く打ち上げて白すなり

○此祭乎宇麻良爾聞食止恐美恐美毛白須此の祭典を御機嫌よく聞ませと白すなり

○衣乃左右袖引並嚴冠乃前突氏恐美恐美毛白須裝束の左右の袖を引き並へ清き冠の前を下に低て白すなり

○乞祈奉留狀乎天雲乃五百重遙爾聞食止恐美恐美毛白須乞ひ祈り奉る狀を天雲の遠き上に白すなり

○庶兒自物膝折伏鵠自物頸根突拔氏恐美恐美毛白須鹿の如き物の様に膝を折り伏せ白すなり

祝 祠 作 文 自 在

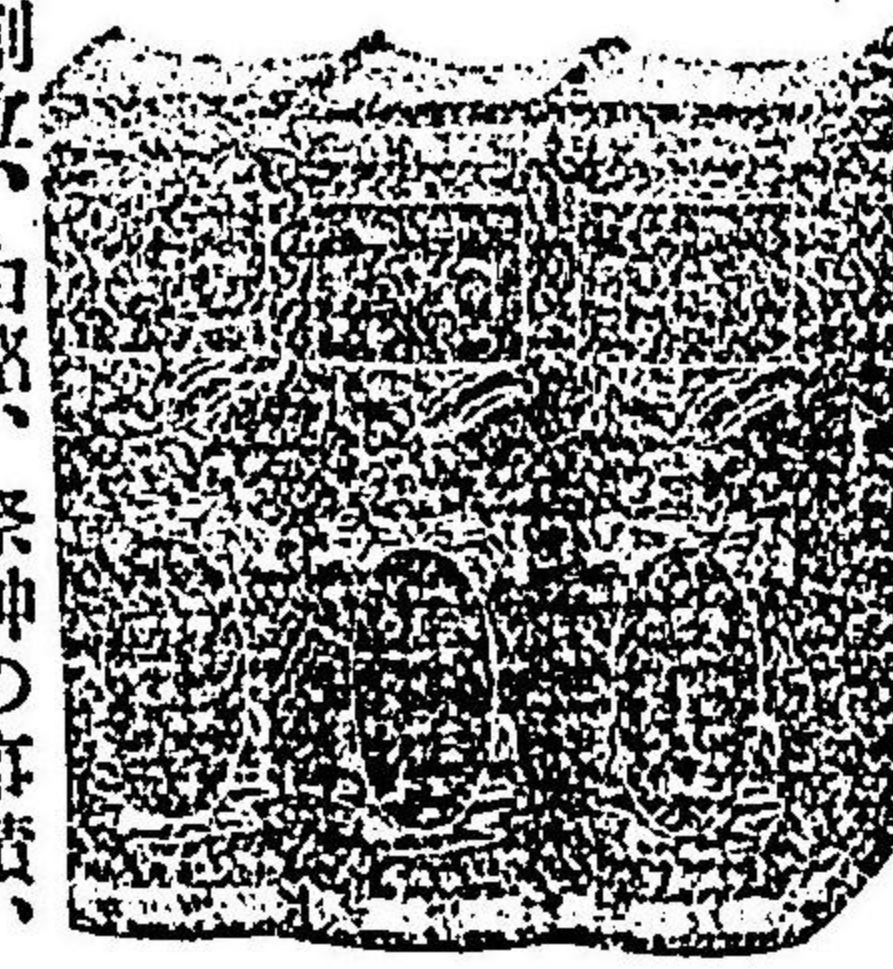
神備品之要書教師牧師良家必携之寶典

- 公子 伯爵 公爵 侯爵 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵
- 杉孫七郎閣下題辭
- 山縣有朋閣下題辭
- 桂太一郎閣下題辭
- 西園寺公望閣下題辭
- 寺內正毅閣下題辭
- 土方久元閣下題辭
- 平田東助閣下題辭
- 大隈重信閣下題辭
- 千家尊福閣下題辭
- 井上友一閣下題辭

- 贊 伯 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵
- 助 子 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵
- 監 男 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵 伯爵
- 修 文學博士 文學博士 文學博士 文學博士 文學博士 文學博士 文學博士 文學博士
- 物本井上 集居上 高豐 見穎 園
- 大隈重信 方久元 杉孫七郎 土方久元 千家尊福 井上 井上 井上 井上

賜天覽 蒙台覽 府縣 明治神社誌料

菊判紙數六千餘頁 洋裝金文字入順美本 全三冊 定價金拾八圓也



特價金拾貳圓也 (但當分の内)

本書は一道三府四十三縣に亘る府縣社郷社並に總數四千有餘社に就き創立、由緒、祭神の事蹟、社殿、境内、の狀況等を詳密なる調査と正確なる材料とに據りて、斯道諸大家に於て、五星箱を経て漸く編纂せられたるものなり。抑も神社は國體の精華にして國民の風教に關する所なれば、一般社會に敬神の觀念を普及せしむべきは目下、國家國體に影響する所、多大なりと、信ずれば爲めに成れり、故に國民の本書を愛讀するに及ばざるは、國家國體に於て、府縣社郷社、郡市町村役場、社寺係、各種官職、教師、牧師、敬神家、氏子、崇敬者、總代は、勿論、府縣廳、郡市町村役場、社寺係、各種學校、圖書館、教育家、歴史家、地理家、は必ず一本書を座右に備付愛讀の榮を給はらんことを希望す。見本入用の方は往復葉書を以て申越れば進呈す。

明治神社誌料發行所 東京市神田區銀治町四番地 電話本九四九 振替四七七二

誠之堂書店

文部大臣小松原英太郎閣下題辭
 皇典講究所講師 神職養成部主事 高山昇編

標註神代記讀本

ホツケツト形美裝全壹冊 舍人親王、太朝臣安齋背像入 正稅價 金六拾八錢

本書は世界の奇書なり珍書なり而眞の聖書なりと内外の學者及び遠古は事記日本書紀の神代卷(約千二百年の昔に於いて我が古)を讀み、假名まじり文に書下し漢字に總て正確なる古訓を附し而も難解の字句には平易なる註釋を加へて一見何人に成せらる稀代の寶典也本書を「ホツケツト」にせ、ハイカラたる資格なし否本書に快古語を嚀り古事を談じ不知不國體の尊嚴しめ又發展的大國民の天職如何を自覺せしめんが爲に編成せられた國民讀本なり(近來朝野の學者漸くし種々の著作ありと雖も或は任意に改作し或は平易を主とするが爲に其の真相を喪失し眞價を減却するの虞なしとせず然るに本書は如上の方法によりて獨り太古の歴史を有の儘に一般國民に紹介せんことを力め神代史研究者に簡潔明瞭なる資料を提供し得たるのみならずかねて

大教正
岡吉胤
先生著

訂正
增補
祝詞全書

和裝全一冊
紙數百九十五頁
正價金五十五錢
郵券代用一割増
郵券中の目録左
に掲ぐ

▲各位御申合され五部以上取纏め御注文相成候へば特に郵税を申受す候

○一月一日祭(井に註解)○元始祭(井に註解)○黎明天皇遙拜○新年祭(紀元節遙拜)○神武天皇遙拜○大
祓奉告○天皇節(井に註解)○新嘗祭(井に註解)○産土神例祭○同神幸出御○同離宮遷座○祈晴祭○祈雨祭○除穢祭○
地盤祭○夜神祭○命乞祭(井に註解)○鎮魂祭○除邪氣祭○毒神祭○黒死病預防祭○避方障祭○除危難祭○祈勝祭○
遊神祭○井神祭○山神祭○宮門祭○地鎮祭○祈始祭○柱立祭○神社上棟○人家上棟○假殿遷宮○本殿遷宮○正遷宮
本殿祭○神社合祀○古宅祭○養蠶祭○酒神祭○祈旅祭○祈願獵○出船祭○初宮祭○祈家内安全○祈商榮開
始○探湯祭○講演奏上○教會大祭○教會入社○改祭告神○祈征河勝利○同一例(井に註解)○凱旋奉祝祭○遷都入營
○徵兵滿期○祈外留學生之安全○學神祭○須賀神社○八坂神社○大同主神祭○惠美須神祭○後田産神祭○菅原大
神領靈○穿小大神祭○淡川神社祭○神社昇格○拜命奉告○祈宿禰本復改心祝詞○奉乞祈本居平田兩神祝詞○擬新田
義貞投太刀祈海神祝詞○祈婚奉告祭○大婚式奉告祭○祭和歌神祝詞○海邊日拜祝詞○修葺奉告祭○拜風神○拜雨神○
拜井神○祈饗祭典式(勢)奉儀祝詞例(節)○臨天奏上○土神祭○神舞祭○迄前狀(井に註解)○埋葬祭一例○歸家
祭○改員何某火葬祝詞○十一日靈祭○五十日祭○百日祭○春秋二季祭○改祭乃由乎奏須祝詞○同鎮祭○教會祈靈會
祀告神○同鎮祭○葬主埋葬告辭○葬主誄辭○遷靈告辭○靈舍日拜○和鎮怨靈之祟祝詞○祖靈改祭○征清戰死軍人招
魂祭○戰死者慰靈祭一例○送征軍病死者埋葬式○英照皇太后百日祭遙拜

發行所 東京市神田區横濱町四番地 誠之堂書店 二樓(電話本局九百四十九番)

故伊勢神宮大宮司 正二位勳四等 伯耆 冷泉爲紀閣下 題詠
實務院議員前全國神職會長 正三位勳一等 伯耆 千原重朝閣下 題詠
東京府知事 正三位勳一等 男爵 水野棟太郎閣下 序文
内務省神祇局長 正五位勳三等 法皇博士 宮地殿夫先生 序文
内務省禮部局長 正六位勳六等 文藝博士 宮川秀雄先生 序文
學務院教授 正七位 文藝博士 宮川秀雄先生 序文
内務省神祇局 相杜吉次先生 著

增訂第三版

賜
神宮官
國幣社
神祇要録

體裁和裝意匠優雅
美麗上等洋紙菊版
總紙數三百三拾四頁
定價金壹圓五十錢
郵送料八錢郵券代用一割増

▲附録神宮以下官幣社府縣鄉村無格社並神職一斑
▲本書發兌の所以 神宮の尊きは誰れ人も知る如くにして官國幣社は神宮に次ぎ我帝國に
なれば崇敬せざるべからざるは言を俟たざるなり然るに之を簡明正確に説明せる其書に乏し是れ今日本書發兌の
所以とす

▲目錄大要

●神宮並別宮十五社及官幣、國幣社の祭神考證 ●御事歴の概略 ●及神社名 ●公認確信
●祈年祭 ●新嘗祭 ●神祇 ●神職 ●神體 ●神階 ●社格 ●名神大 ●二十二社 ●神社 ●氏姓 ●土神 ●月次祭

●附録 神祇並神職一斑
●神社官國幣社以下
●在人口戸數並村社地及墳墓土地の御新以御靈代を御奉納になりたる神社並其年月 ●神宮火祭 ●官國幣社
●大祭府縣社以下大祭及公式 ●幣帛及神饌料 ●官國幣社保存金(孰れも最近調査)
●御歴代天皇御陵墓一覽表

國語漢文講習用書

- 本戶考備本生田目經錄註解 價四拾錢
- 曾我物語 三本五百枝三輪杉根兩先生註解 郵稅六錢
- 宇治拾遺物語註釋 全一冊 價八拾錢
- 駿臺雜話註釋 關儀註 正價八錢 郵稅八錢
- 增田子信 生田目經德兩氏註解
- 古今和歌集講義 全二冊 價六拾錢
- 枕の草紙詳解 飯田武輝校閱 松平靜著 全三冊 價八拾錢
- 十六夜日記講義 氏講 全三冊 價四拾錢
- 落窪物語講義 中野述 全三冊 價五拾錢
- 更科日記講義 大塚彦 正價三十錢 郵稅四錢
- 神皇正統記講義 今泉定介講述 正價六拾錢 郵稅拾錢
- 文學博士秋野由之註 全七冊 郵稅廿四錢
- 太平記註釋 本文五冊 全七冊 郵稅廿四錢

- 增田子信先生通解 一名通俗源氏物語
- 新編紫史 全十冊 價五拾錢
- 平家物語講義 今泉述 全一冊 價六拾錢
- 保元物語講義 三木氏 全二冊 價七拾錢
- 平治物語講義 今泉著 全一冊 價八拾錢
- 大和物語詳解 伊藤平 價四拾五錢
- 徒然草講義 伊藤平 價四拾五錢
- 紫式部日記講義 氏述 價四拾五錢
- 土佐日記講義 今泉定 價四拾五錢
- 國學院講習講義 今泉定 價四拾五錢
- 方丈記講義 今泉述 價四拾五錢
- 百人一首講義 今泉述 價四拾五錢
- 伊勢物語講義 今泉定 價四拾五錢
- 竹取物語講義 今泉述 價四拾五錢

發行所 東京市神田區 誠堂書局

國語漢文講習用書

- 紀貫之歌集 增田子信編 和木小二冊 正價四錢
- 國語漢文模範 一名和漢文之對照 假八拾錢
- 國語語作文 小杉修 正價五拾錢
- 動詞形容詞活語集 假六拾錢
- 東關紀行 中野述 正價四拾五錢
- 御伽草子 今泉定介校 正價七拾五錢
- 新御伽草子 文學博士 假七拾五錢
- 國語集解 和木二冊 正價七拾五錢
- 故事成語考註解 假六拾錢
- 日本俗語文典 松平靜著 正價八拾錢
- 大學中庸講義 深井鑑 正價六拾五錢
- 論語講義 深井鑑 正價七拾錢
- 孟子講義 深井鑑 正價七拾五錢

- 以上 四書講義 五冊 價四拾錢
- 孟子 假七拾錢
- 周易講義 柳田漢作 假七拾錢
- 小學講義 羽山尚德講述 假八拾錢
- 正文章軌範講義 假四拾八錢
- 日本政記講義 假四拾八錢
- 孫子吳子講義 假四拾八錢
- 日本外史講義 假四拾八錢
- 史記列傳 假四拾八錢
- 東萊博議 深井鑑 假四拾八錢
- 詩眼 戈瀧編 假四拾八錢
- 中等作文軌範 假四拾八錢
- 文章形容詞範 假四拾八錢

發行所 東京市神田區 誠堂書局

249
62

明治四十五年三月二十日印刷
明治四十五年四月七日發行

正價 金八拾錢

著作者 青木 陳實

東京市神田區鍛冶町四番地

發行兼印刷者 伊藤 岩治郎

東京市本所區香場町四番地

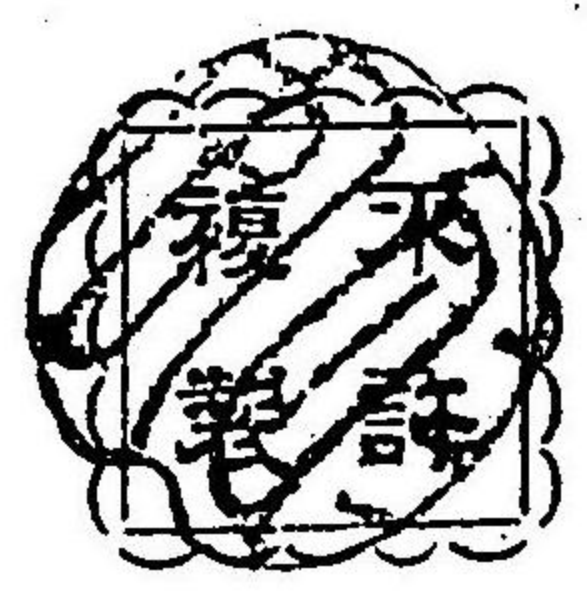
印刷所 凸版印刷株式會社

東京市神田區今川橋通北

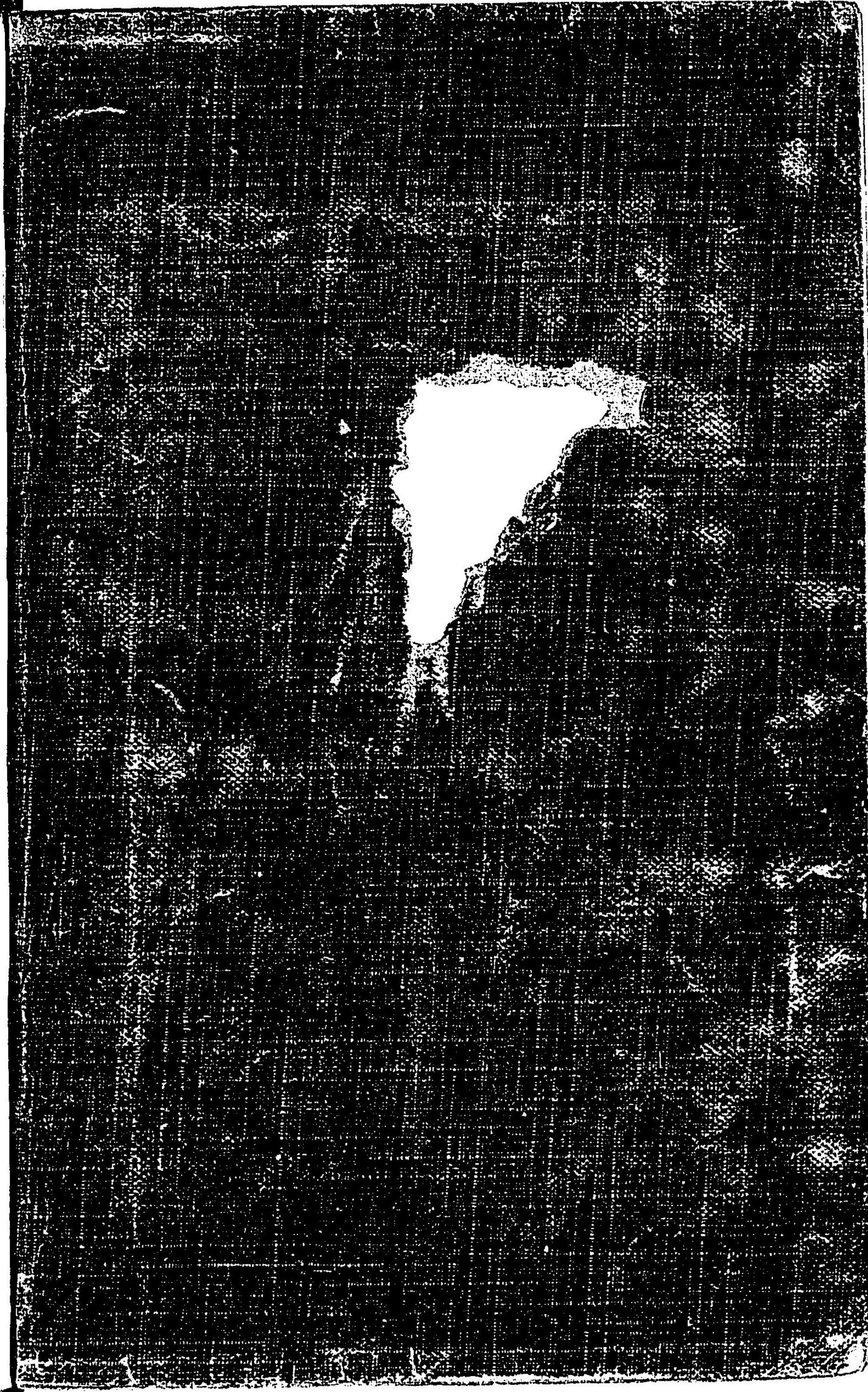
發行所

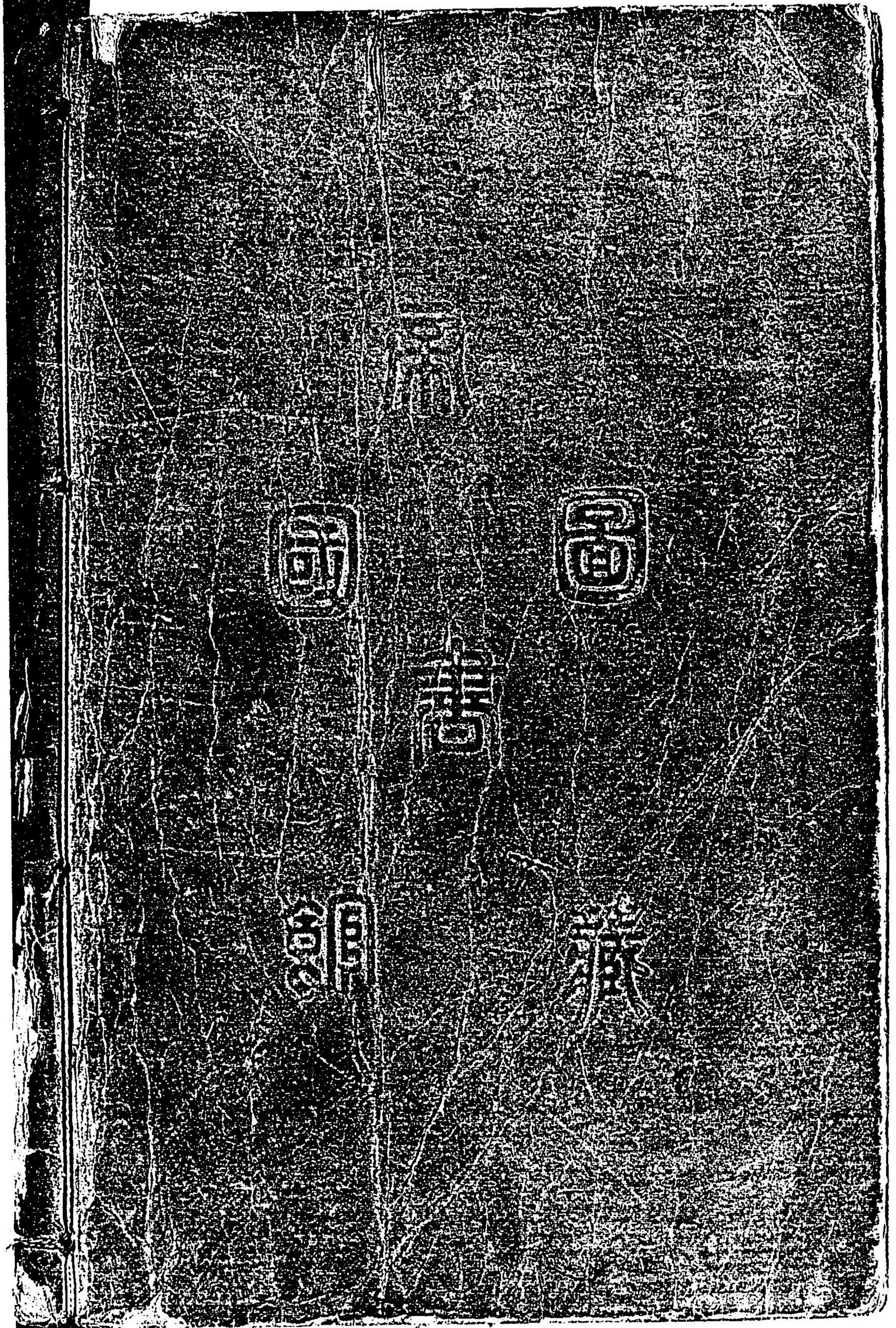
誠之堂書店

東京市本所區第九番地
電話東京四七七號



249
62.





德

圖

書

卷

一

014527-000-5

249-62

祝詞作文自在

青木 陳実/著

M45

ABB-0911

